

一般社団法人
建設コンサルタンツ協会 東北支部

JCCA TOHOKU

明日への風、
東北から



vol. **68**
支部だより 2024.4

目次

Vol.68

・ 巻頭言 企業倫理に活かしたい「報徳思想」(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部 支部長 菅原 稔郎	1
・ 特集1 育児休業特集 前書き.....	4
男性育休の質を高めるために 東北福祉大学 健康科学部 保健看護学科 塩野 悦子	5
私の育児休業 ～息子の誕生から職場復帰まで～ 八千代エンジニアリング(株) 佐藤 正隆	7
育児休業取得拡大について..... 大日本ダイヤモンドコンサルタンツ(株) 小笠原俊秀	9
2度の育児休業を経て ～子供との尊い時間～ (株)アースデザインコンサルタンツ 山口 加奈	10
・ 海外紀行 フィリピン滞在記..... (株)建設技術研究所 水野 直弥	12
・ 技術シリーズ 令和5年度河川講習会「河川分野のインフラDX」技術部会 河川専門委員 (アジア航測(株)) 黒岩 知恵	16
・ 女性技術者の声 「女性技術者」と自身の在り方..... 応用地質(株) 柳川 未奈	18
災害大国の土木技術者として..... (株)ドーコン 吉川 直子	19
・ 若手技術者の声 社会人になって思う事と今後の目標..... 三井共同建設コンサルタンツ(株) 新井 涼介	20
・ 私の趣味 私らしくいられる時間..... (株)ダイエツ 村上 清文	21
・ 名勝地・行事 松川浦周辺について..... サンコーコンサルタンツ(株) 内藤 信悦	23
・ 講演会等報告 令和5年度 講演会報告 Vol.1 広報委員 大場 秀行	25
令和5年度 講演会報告 Vol.2 広報委員 大場 秀行	27
令和5年度 道路専門委員会・構造専門委員会合同技術講習会 技術部会 道路専門委員 佐々木 勝	28
・ 意見交換会 令和5年度 意見交換会について..... 対外活動委員長 江藤 和昭	30
・ 委員会紹介 総務部会の紹介..... 総務部会長 長南 憲一	33
・ 我ら、建コン若手の会！ 「福島県若手職員×建コン若手の会交流会」総務部会 若手の会 (三井共同建設コンサルタンツ(株)) 東倉 弘晃	35
・ 特集2 現場見学会 令和5年度 構造専門委員会「現場見学会」に参加して (株)協和コンサルタンツ 浜野 友希	36
令和5年度 構造専門委員会「現場見学会」に参加して 中央コンサルタンツ(株) 菊地 美緑	37
令和5年度 河川・環境専門委員会「合同現場見学会」に参加して セントラルコンサルタンツ(株) 中川 遥	38
令和5年度 河川・環境現場見学会「合同現場見学会」に参加して (株)オリエンタルコンサルタンツ 兼子 英之	39
令和5年度 道路専門委員会「現場見学会」に参加して セントラルコンサルタンツ(株) 落合 佑亮	41
・ 支部活動報告 能登半島地震に伴う支援対応状況について.....	43
・ 支部だより.....	44
・ 会員の動向.....	49
・ 東北支部 会員名簿.....	50
・ 編集後記..... 広報委員 安井 栄晃	52



企業倫理に活かしたい「報徳思想」

(一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部 支部長 菅原 稔 郎

当支部主催の令和5年度講演会は、11月に一般の方を、そして2月に会員の方を対象に開催いたしました。

どちらも「東北の未来を育む」というテーマで、福島大学の村上早紀子准教授には「まちを育む」、仙台育英学園高等学校硬式野球部の須江航監督には「ひとを育む」と題してご講演をいただきました。

一昨年夏の白河越えに続き2年連続で仙台育英学園高校を夏の甲子園決勝に導いた須江監督には、全国から講演依頼がある中、2度もお引き受け頂いたことに対し心から感謝を申し上げますと共に、これからも令和の名監督として東北の野球ファンを熱くさせてくれるご活躍を期待しております。

私は小さい頃から野球観戦、特に春夏の甲子園（高校野球）を観るのが大好きでした。高校野球の試合は、やはり地元（宮城県）の高校でないと応援にも熱が入りません。

宮城県の代表が敗れると、次は東北地方で勝ち残っている高校を応援することになります。そして、東北勢がすべて敗れて姿を消すと大会への関心が急速に薄れていきます。

ところで、東北地方とは関係なく、出場すれば必ず応援する高校があります。

それは、甲子園球場に程近い西宮市内にある「報徳学園高等学校」。野球部のほかにも陸上部やラグビー部なども全国大会で活躍しているスポーツで有名な学校です。今年のセンバツ高校野球にも2年連続23回目の出場を果たしました。

なぜこの高校が好きなのかといえば、二宮尊徳（幼名・金次郎）の「報徳思想」を教育の柱とし、質実剛健で感謝と思いやりを知る若者の育成を目指している学校だからです。この「報徳^{ほうとく}最^{さい}貞^{けい}」は、100%祖父の影響によるものです。

「菅原さんの家に、二宮金次郎の銅像があるというのは本当ですか？」

社内の人にこのような質問をされたことがこれまでに何度かあります。答えは「YES」です。

かつては全国の小学校に金次郎さんの銅像や石像が置かれていましたが、老朽化や学校の建て替えなどに伴い金次郎像が撤去される現象が進んでおり、最近あまり見かけなくなりました。

背景には、「本を読んで歩いたりしたら車にはねられる」、「歩きスマホを肯定しかねない」、「子供が働く姿を勧められない」など保護者の声もあり、今の時代にはすぐわなくなってしまったのでしょうか。

当家にある金次郎像は、私の祖父が昭和30年前後、箱根方面を訪れた際に金次郎生誕の地である現在の小田原市内で購入したものです。

祖父は金次郎を敬愛していました。

私が小学校6年生の時、県職員だった父親の転勤に伴い古川市（現在の大崎市）から仙台市内の父の実家に転居し、祖父母との同居生活が始まりました。

ところが、同居からわずか2年後に父親が他界し、以後は祖父の庇護のもとで私は成長しました。

祖父は一言でいえば「気骨あふれる明治の人」で、私のことを不憫に思いながらも厳しく躰けられました。

働き者の祖父からすれば、ぐうたらな孫が許せなかったのでしょうか。

「かばねやみ」とか「なまだら」という怠け者を指す宮城県の方言でどれだけ叱られたことか。

薪を背負って歩きながら書物を読む金次郎の姿を引き合いに延々と説教されたものです。

結果として、あまり効果はなかったようですが…。

さて、その二宮金次郎は江戸時代後期の農政家であり思想家で本名は尊徳（たかのり／そんとく）です。

農家に生まれ、苦勞しながら没落した家を再興し、その手腕を買われて諸藩ならびにおよそ600の村を復興。徹底した実践主義者で、農村の生産力に応じて分度を定めて勤儉を説き、その結果としての富を譲り合

うという社会的行為に導く「報徳思想」を広め、たくさんの人に慕われたといえます。

その後「報徳思想」や「報徳仕法」は尊徳の子孫や弟子たちに引き継がれ、広まっていきました。

洪沢栄一、安田善次郎、豊田佐吉といった明治の財界人・実業家や、松下幸之助、土光敏夫、稲盛和夫といった昭和を代表する経営者たちにも多大な影響を与えたといわれます。

1908年、明治を代表する思想家でキリスト教伝道者でもある内村鑑三が英文で著した『代表的日本人』という本の中で、優れた日本人5名が紹介され、その中で、西郷隆盛、上杉鷹山、中江藤樹、日蓮上人と並び、二宮尊徳が挙げられています。

ジョン・F・ケネディが第35代アメリカ合衆国大統領に就任した際、日本人記者団から「貴方が日本で最も尊敬する政治家は誰ですか」と問われて、「上杉鷹山（うえずぎようざん）」と答えた有名な話がありますが、ケネディ大統領はこの『代表的日本人』を読んで知っていたそうです。

二宮尊徳の言葉に、こんなものがあります。

「道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である」

武士の道徳論だけでは経済は成り立たず、とは言っても道徳倫理のない経済は単なる金儲けの手段となってしまう。

明治の実業家たちにとっては、日本が培ってきた武士道や儒学などの道徳倫理と明治以後に欧米から輸入された資本主義経済をどう両立させるかが大きな命題でした。

道徳と経済という二律背反するものを融合させる尊徳の教訓は、明治の実業家たちの心にフィットしそれ以後も継承されていきました。

洪沢栄一の思想である『論語と算盤（そろばん）』は、人間は「論語で人格を磨くこと」と「資本主義で利益を追求すること」の両立が大切だと説いています。

つまりは「道徳経済合一説」であり、二宮尊徳の教えを継承したものと考えられます。

最近、事業倫理を軽視した挙句に事件化した企業の不正や不祥事が連日のように紙面をにぎわしています。まさに「道徳なき経済」です。

昨年の中古自動車販売会社の保険金不正請求・街路樹除去事件は論外として、今年に入り相次いで判明した製造業の検査不正に共通しているのは、現場にかか

る過度な圧力、モノを言えない空気、体制の不備などが原因として挙げられています。

日本のモノづくりの信頼回復に向けて、抜本的な改善・改革が待たれます。

「利益を優先して道徳に背く行為に走れば、顧客や社会の信頼を失い、事業そのものが破綻してしまう」。

洪沢栄一『論語と算盤』の教えの通りであります。

業種は違えども、これはあらゆる組織（企業）が陥る危険性があることから「他山の石」として学ぶべきだと思います。

一方、これも今年のことですが1月2日、羽田空港で日航機と海上保安庁の輸送機が滑走路上で衝突する事故が発生しました。

そして、炎上した機体から乗務員が全員を無事に脱出させた対応に世界から称賛が集まりました。

日本航空（JAL）は今から14年前、2兆3,000億円という戦後最大の負債を抱えて会社更生法の適用を申請し事実上倒産しました。

そのJALを再生させるため、政府から強い要請を受け、同社の会長に就任したのが稲盛和夫でした。

就任の際、「私は、JALの社員を意識の高さで世界一にしたい」と述べ「エリート主義からの脱却」を断行し、「アメーバ経営」、「フィロソフィ（哲学）の経営」をJALに持ち込みわずか2年8カ月という短期間で再上場を果たしました。

「JALのフィロソフィ」の柱にあるのは利他精神ですが、今回、緊急かつ重大な局面でそれが発揮されたかたちとなりました。

やはり経営には哲学が必要なのでしょう。

また、JALは先頃、4月1日付の新社長人事を発表しました。

初の女性社長、初のCA出身社長、初のJAS（JALと経営統合した日本エアシステム）入社組社長として話題になりました。

「3つの初」の社長人事ですが、これも現場を重視する稲盛イズムが継承されたからだといわれています。

最後に、本稿を書きながらわかったことですが、「西の報徳、東の花巻東」。

あの太谷翔平選手が3年間野球と勉学に勤しんだ花巻東高等学校も、二宮尊徳の「報徳思想」を建学の精神としているそうです。

プレイヤーとしてだけでなく、その人間性についても高く評価されている太谷翔平。

彼の言動や行動を見ていると、まるで「報徳思想」を体現しているように思えてなりません。

細かい気遣いができること（至誠）、正しい方向に向かって努力すること（勤労）、莫大な富を手にしても生活は至って質素で私生活がぶれないこと（分度）、全国の小学校に野球グローブを贈呈したこと（推譲）等々。

いまの日本が世界に誇るべき『代表的日本人』といえましょう。

二宮尊徳によって導かれた「報徳思想」は、日本人の普遍的な価値と社会的な規範を創りあげてきました。

日本が世界に誇れる精神的文化的財産である「報徳思想」をこれからも人材育成そして企業倫理に活かしていきたいと思います。



－報徳思想－

神道、仏教、儒教の教えと、農業の実践によって編み出された二宮尊徳独自の経済思想（人が豊かに生きるための知恵）

- ・至誠（しせい） 誠実な心掛けや、真心を尽くすこと
- ・勤労（きんろう） 物事をよく観察・認識し、社会に役立つ成果を考えながら働くこと
- ・分度（ぶんど） 収入に応じた一定の基準を決めて、その範囲内で生活すること
- ・推譲（すいじょう） 分度を守ったうえで生じた余剰を、子孫や社会のために譲ること



育児休業特集

総務省統計局の2022年（令和4年）の労働力調査（基本集計）によりますと、2022年平均の就業者数は6,723万人と前年に比べ10万人増加しており、2年連続の増加になるとの事です。

年齢別に見てみますと、15歳から64歳の就業者数は5,810万人と6万人の増加、65歳以上の就業者数は912万人と3万人の増加となっております。

また男女別で見ると男性は3,699万人と12万人の減少、女性は3,024万人と22万人の増加となっております。



男女別の就業者数の推移を見てみますと、2012年に男性の就業者数は3,622万人で、女性は2,658万人だった就業者数は2022年では男性3,699万人、女性3,024万人と男性で77万人、女性は366万人増加しております。

このように女性の社会進出が進み、女性がキャリアを築くことが一般的な社会になりました。加えて、人権と平等の観念から、男女平等や労働者の権利といった観点も進展し、性別による差別も解消される社会となってきました。

今では、男女共に働く家庭が一般化しており、親が仕事と家庭の両方を適切に調和させる必要が高まり、新たに生まれた子供の子育てに専念するために、育児休業は一時的に仕事を離れることができる制度として定着してまいりました。

具体的には、男女ともに子供が1歳に達するまで申出により育児休業が取得できる制度であります。

また、2022年4月より育児・介護休業法が改正され、男女とも仕事と育児を両立できるように、「産後パパ育休制度（出生時育児休業制度）」や雇用環境整備、個別周知・意向確認措置の義務化などの改正が行われ、男性も育児に積極的に関与することが推奨されるようになりました。

このような背景から、企業では男女ともに育児休業を取得しやすい環境を提供する必要があります。

具体的には、就業規則や労使協定を改定し、改正後の育児・介護の内容に従業員に周知しなければなりません。また、法改正の内容を踏まえ適切に取得対象者や取得日数などを把握しなくてはなりません。

本誌の特集では、女性活躍・女性の躍進が進む我々建設コンサルタント業界で、実際に育児休業を取得し育児（家事）に専念された方々の実体験をご紹介します。

また、母性看護が専門の東北福祉大学健康科学部保険看護科の、塩野悦子教授より「男性育休の質を高めるために」と題してご寄稿いただきました。

男性・女性問わず、親として子育てに積極的に関与していただき、来る社会を担う子供たちの成長をバックアップしていただきたいと願い、本特集を組ませていただきました。





男性育休の質を高めるために

東北福祉大学 健康科学部 保健看護学科 塩野悦子

私は、看護教員の傍ら助産師として両親教室（初めて親になる夫婦への出産前教育）を20年以上実施しております。これから親になる夫婦が必要な知識と技術を学び、互いに建設的に話し合える機会になればと長年携わっております。2022年度より男性が育休を取得しやすい法的整備がなされ、男性も共に育児をする時間が多くなったことは本当に素晴らしいことです。

これまでの経緯を振り返り、これからの男性育休のあり方について考えてみたいと思います。

1. 我が国の男性育休に関する経緯

我が国は90年代に入り、加速する少子化対策の一環として色々な父親支援を試みています。1995年に育児・介護休業法が制定されましたが当初、育休を取る男性は珍しく「育児で会社を休む男たち（ユック舎）1995」や「育休父さんの成長日誌（朝日新聞連載）1997～1998」が話題になりました。父親もずっと家にいると妻との会話は“屏に寝そべる猫の話”だけになるなどと書かれていたことを覚えています。

1999年に厚生省（当時）は、父親になったあるタレントを起用して「育児をしない男を、父とは呼ばない」というポスターを起用したことは画期的でしたが、2年後に離婚してしまいました。

そこで、2009年に厚労省は、「パパママ育休プラス」制度を、2010年に「イクメンプロジェクト」を立ち上げ、父親育休の機運が高まりました。

2010年度の男性育休は1.38%でしたが、2011年には2.63%となり、その後が期待されたのですが、男性育休取得率は全く伸びませんでした。

ちなみに、「イクメン」という言葉は、2007年頃からマスコミで使われ始め育児を楽しみ積極的に行う、または将来そのような人生を望む男性の総称でいわゆる“イケメン”をもじった造語です。2010年の新語・流行語大賞にもノミネートされました。

しかし、世間の新米パパは初めての育児で「俺って結構イクメンじゃん」と勘違いし、妻から「ちょっとやっただけで得意気にアピールされても」と、感謝

どころか妻をイライラさせてしまう現象が起き“なんちゃってイクメン”と呼ばれるようになります。

一方で、2014年に牛丼チェーン店でワンオペによる深夜の労働体系が問題になったのですが、それが育児や家事を1人で賄う過酷さに例えられ「ワンオペ育児」と呼ぶようになり、イクメンは影を潜めていきました。

むしろSNSの普及により、ワンオペ育児への不満は今でも勢いが止まりません。

2. 改正育児・介護休業法（2022）に踏み切った背景

そのような訳で、昨今「イクメン」は死語になりつつありますがこれまでの経緯は男性の意識に大きく影響しています。多くの男性は育休を取りたいと思っていたのですが、職場で取得しづらい雰囲気があったわけですね。今回の法改正の成功はここにメスを入れたことです。

また、2019年の労働基準法改正で時間外労働の上限規制や年次有給休暇の確実な取得の導入も功を奏しています。

2022年度の男性育休取得率は過去最高の17.13%です。男性の育休取得率の公表状況調査（2023年7月速報値）によれば、調査に回答した企業の男性育休取得率は平均46.2%で、男性育休取得日数は平均46.5日でした。政府は2025年度に50%の目標を掲げていますが、今後が期待されるところです。

3. 男性育休取得には出産前準備が必要

しかし、法的整備が整っても家庭内で男性育休を円滑に進める体制が整わなければ意味がありません。

出産前から夫婦で男性育休取得に向けての心構えをすることは必須になるでしょう。特にお腹に赤ちゃんのいる妊婦側は、刻々と親になろうと変化しますがパートナーである男性側はその変化を傍らで想像するしかありません。

このように妊娠の時点で、既に男女には生物学的な差があります。私の行う両親教室では、男性側の持つ

育児力を引き上げる作業などにも力を入れています。

身体的な差を埋めるには「妊婦体験」と称し、パートナーである男性が約7kgの妊婦体験ジャケットを着て、日々の風呂掃除や階段昇降をしていただくのですが、男性は一気に妊婦に近寄れます。

また、親になる実感の差を埋めるためには、抱っこやおむつ替え、お風呂の入れ方など育児技術の練習は、パートナーである男性に先に実践していただきます。

4. 夫婦で「2つのゲート」を開けよう

さらに私は、妊娠期の夫婦に対して自らの研究で明らかにした「2つのゲート」を開けることが産後クライシス予防につながることを伝えております。

新たな人生のステージでは危機が生じるのは当たり前現象です。夫婦とは以心伝心で、何も言わずとも分かり合える特徴がありますが、子育てでは以心伝心は通じません。

夫婦で危機を乗り越えるには、産後クライシスの原因や対応方法を出産前から知り、意図的に2つのゲートを開けていく練習が必要になります。

5. 男性育休の質を高めるために

産後は、赤ちゃんの泣きへの対応、睡眠不足、母乳の不足感など想定外の連続で夫婦が共倒れになりかけます。そのため、男性育休中は本当に夫婦でのコミュニケーションが重要になります。男性育休の質を高めるためには、正に夫婦間の風通しをよくすることです。

さらに、互いの休息を配慮する互いのやり方を尊重する第三者に助けを求めることを躊躇しないなども重要でしょう。

なお、この「2つのゲート」を出産前に理解していた方々からは、“産後夫婦のやりとりの指標になった”、“オムツで手こずっても妻が厳しい言葉を言わずにむしろフォローしてくれた(夫)”や“夫のやり方にイラッとするがあったが、ゲートを思い出し一度考えてから助言した(妻)”などの声をいただいております。

2つのゲートを開けることもぜひお役立てください(ケロケロ助産院→<https://kerokero-shiono.com>)。

最後に、建設コンサルタンツ協会東北支部様にこのような執筆の機会をいただきまして、心より感謝申し上げます。貴協会の益々のご発展を祈念しております。

「2つのゲート」とは

*子育てをする夫婦は、2つのゲート(とびら)を開け閉めしています。開けるようにすると産後クライシスを予防につながります。意図的に開けないと自然に閉まる特徴があります。

●1つは、“夫の子どもの世話のゲート”。

*開け閉めする鍵は妻が握っています。このゲートを開ければ夫の子どもの世話への意欲が増し、閉めれば夫の意欲が削がれます。

*このゲートを開けるには、夫と子供の接点を作る・夫のやる気を促す・ぎこちなさは大目に見るなどが効果的です。

*夫から子どもの世話を奪ったり、ダメ出しをしたりするとゲートが閉まってしまいます。

●もう1つは、“妻の負担軽減ゲート”。

*開け閉めする鍵は夫が握っています。このゲートを開ければ妻の負担は軽減し、閉めれば妻の負担は増してしまいます。

*このゲートを開けるには、妻の大変さに向き合ったり、妻の話をよく聞いたり、労いの言葉をかけたりすることが効果的です。

*人任せにしたり、妻の話を受け流したりすると、このゲートは閉まってしまいます。



イラスト E. Shiono



私の育児休業 ～息子の誕生から職場復帰まで～

八千代エンジニアリング株式会社 佐藤 正隆

1. 息子の誕生と育休の取得

2023年8月16日、私にとって第一子となる息子が誕生しました。名は「広隆（ひろたか）」と名付けました。

「広」く物事を見られる、「広」い心を持った子どもに育ってほしいという思いと、私の祖父・父・私まで3代続く「隆」を入れた名前にしました。

誕生前に会社には、育児休業を取得する旨を伝えました。休業期間は首が座り、育児負担が軽減される時期までを見込み8月30日から1月4日までの約4ヶ月間としました。

過去に当社で、育児休業を取得した男性の中では比較的長めの期間の取得となりました。

ちょうど同じ部所で、同じく男性育休を取得した社員がいたため2名減となった時期がありましたが、その際は当社の本店・関東センター（埼玉県）からも営業マンの派遣応援を頂きました。また、広報委員会の委員活動も当該期間はお休みを頂きました。

2. 育休中の過ごし方

2023年8月30日から育児休業に入りました。産まれてすぐは泣いている時間が長く、私と妻のどちらかが常に抱っこしていないと落ち着かない日々が続きました。

また、夕方の寝る直前の時間に泣くことが多く、寝かしつけに大変苦労した覚えがあります。

抱っこして寝たと思い、ベビーベッドに置こうとした瞬間にまた泣いてしまうこともよくありました。（巷では「背中センサー」と呼ばれているようです。）

育児休業に入りありがたいと思ったことは2つあります。ワンオペにならず育児・家事を進められること、妻とコミュニケーションを取りながら育児に取り組めることです。

妻が美容室・病院・買い物などに出た際、数時間私がワンオペを行うことができました。

子どもを見ながらの家事・お風呂などが大変で、妻が帰ってくる頃にはぐったりしていました。ワンオペ

では休憩もままならないと感じました。

2人での育児は、子どもを見る役と家事を進める役、交代でどちらかが休憩など、分担ができることが非常にありがたいと感じました。

妻が言っていたのですが、私の育休後ワンオペになり、話す相手がなくなったことが辛いと感じたそうです。

2人なら子どもの具合が悪そうに見えるときに夫婦間で会話ができるので慌てず落ち着いて解決策を考えられるので非常にありがたいと感じたとの事です。

また、仙台市で運営している子育てふれあいセンター「のびすく泉中央」のイベントにもたびたび参加しました。

イベントでは東北福祉大の塩野先生の講習及び「のびすく泉中央」のスタッフの方々より支援を頂き、地域の子育て支援のありがたさを大いに感じました。

塩野先生の講習で学んだ、夫婦間の「2つのゲート」を閉じないことを意識することで、夫婦間で険悪にならず円満な子育てをすることができたと感じています。

育休中、東京の私の実家にも9日間の滞在をしました。両親にとっては初孫であり喜ばせてあげたい、距離も離れているので長い期間一緒にいられる時間を作りたいと思い計画しました。

両親とお食い初めや散歩、観光、遊びを一緒にすることができ、私たち夫婦にとっても両親にとってもかけがえのない時間になったと思います。

年末、会社の仕事納め式に少しだけ、息子の顔見せでお邪魔しました。

大勢の社員がいたため怖くなってしまい終始泣いていたのですが、支店長が抱いた際の一瞬だけ笑顔になり、すでに付度ができるのかと驚きました（笑）。

また、息子は私とそっくりだと多くの方に言われました。育児休業期間全体を通して振り返ってみると自身もミルクや搾母乳の授乳やオムツ交換、子どもとの遊びや散歩など男性でもできることがたくさんあると思えるようになりました。

特集1 育児休業特集

また、普段はあまり家事をしていなかったのですが育休を機に掃除・料理などを日々するようになったため自身の家事スキルも少しは成長させられたかなと感じています。

何より、子どもが日々成長していく過程を毎日間近で見られることはこの上なく幸せでした。

3. 職場に復帰して

2024年1月5日より職場に復帰しました。年始のため職場では仕事始め式が行われ、久々に会社の同僚と再開できたことを喜びつつ、今後の仕事に対して身が引き締まる思いになりました。

同時に、育児との両立を意識する必要もあるためメリハリのあるワークライフバランスを意識した仕事への取り組み方に変えていかねばならないと考えました。

仕事始め式では、当社の支店長より「日々の仕事の中で「改善」を意識して取り組んでほしい」との挨拶があり、業務を改善することで効率が上がれば育児との両立にもつながるため意識して取り組みたいと思っています。

広報委員会のメンバーの皆様とも、新年に再開することができました。

息子の名前「広隆」を紹介した際、委員の方から偶然にも広報委員会の「広」を一文字頂いていたことを指摘され、縁があるものだと感じました。

職場に復帰した後は、やはり以前のように時間はありませんので朝の出勤前の時間に息子と少し遊び、夜に帰宅した後に息子の寝顔を見る、まとまって遊ぶのは基本、休日という形になりました。

少し寂しい気持ちにもなりましたが、仕事が終わって帰るときの楽しみが以前と比べ物にならないくらいになったと思っています。

4. おわりに

前述のとおり、長期間の育児休業を頂いたため、上長及び関係部所の皆様、広報委員会の皆様には大変なご負担をかける形となりましたが、育休取得について理解を頂き快く送り出して頂いたこと、また、東北福祉大の塩野先生・仙台市子育てふれあいセンター「のびすく泉中央」のスタッフの皆様からも多大なるご支援を頂きましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。



写真1 仙台うみの杜水族館にて妻と3人で



写真2 生誕5か月の記念写真

育児休業取得拡大について

大日本ダイヤコンサルタント株式会社 小笠原 俊 秀

1. はじめに

2019年に営業職として入社し、早5年が経ちました。社内はもちろん発注者様、建コン協会の皆様から多くを学び、未熟ながらも成長させていただいた5年間で。そんな私も2023年8月に新しい家族を迎えこの度、育児休業を取得しました。未だ取得率の低い男性の育児休業について経験や所感を述べます。

2. 育児休業取得まで

産後パパ育休、育児休業を各1か月、合計2ヶ月の休業を取得しました。

申請書類は会社を通じて提出するため関係部署の方々には大変ご支援をいただき、この場を借りてお礼申し上げます。育児休業取得にあたり、業務運営に支障がないよう努めました。具体的には休業中、私の代わりに対応する営業担当者と事務所の所員に対して客先紹介や担当県の動向確認、受注業務の進捗、積算方法を共有するための事前打ち合わせや発注者様や協力会社等、関係者へ休業する旨の連絡を実施しました。

父親としては子供が生まれた喜びに浸っていたいところですが現実にはそうはいきませんでした。

産まれた直後は1日休みを取り、市役所へ関係書類の提出、受取や銀行口座開設、身内や会社への報告等の対応に追われました。仕事の合間に抜け出して対応できる作業量ではないため、出産直後は1日休暇を取って手続き等対応することをオススメします。

3. 育児休業の所感

育児休業を取得したことにより夫婦でミルク、寝かしつけ、沐浴と一通り経験することが出来ました。間近で成長を感じられるのは何物にも代えがたい経験です。

一通り経験し、育児でワンオペは厳しいという現実を目の当たりにしました。

特に沐浴は入浴担当、脱衣・拭き上げ担当と二人いないと自身の入浴もままならないため、休業中は私が入浴担当、妻が脱衣・拭き上げ担当と分担しました。

普段の家事に育児が追加されるため、日々時間に追われる毎日を過ごす中で、改めて自分を育ててくれた両親に尊敬の念を抱きました。

4. さいごに

育児休業取得拡大に向け、性別、役職、部署関係なく、育児休業を取得しやすい環境づくりが重要だと感じました。

そのような環境を作るためには同じ部署の上司や先輩が積極的に育児休業を取得し、前例を作るところから始まると思います。

育児休業は法律に基づいた規定のため、勤務先の就業規則に育児休業の規定がない場合でも、会社側は休業の申し出を断ることは出来ません。

その為、権利を主張し、休むことは可能ですが、その分負担を背負う周りの方々への配慮が必要だと実感しました。

日頃から良好な人間関係を構築できる環境が整備されていれば育児休業取得を拡大出来るのではないのでしょうか。



写真1 写真は子供が成長した時にサンタクロースの存在を証明するための一枚です。



2度の育児休業を経て ～子供との尊い時間～

株式会社アースデザインコンサルタンツ 山口 加奈

私は、昨年8月に第2子を出産し、現在は育児休業を取得させていただいております。毎日育児に奮闘しながら、笑ったり泣いたりいろいろな顔を見せてくれる娘と充実した日々を過ごしております。

今回は2度目の出産・育児ということもあり、気持ちに余裕を持つことができ、大変な中でも育児を楽しみながら子供の成長を感じております。

この度、このような寄稿の機会を頂いたので、1度目の育児休業や仕事復帰について、子育てをしながら働く事、そして2度目の育児休業について振り返りたいと思います。

1度目の育児休業は2020年1月に第1子を出産し全てが初めてというなか、とにかく不安な気持ちでいっぱいでした。初めての出産・育児はもちろんのこと、初めて長期間仕事から離れることで職場の方々に迷惑をかけることや仕事のブランク、仕事と育児の両立ができるかなどとにかく不安な気持ちや焦りがいっぱいの状態で育児をしていました。育児休業は育児に専念するための期間で、目の前の日々成長していく我が子で頭をいっぱいにして、もっと楽しんで育児が出来れば良かったと少し後悔しています。

1度目の育児休業を経て実際に復職してみると職場の人たちの温かい心遣いや理解があり、出産前の環境と変わらずに仕事をスタートすることができ、とても安心しました。育児休業中に抱えていた不安は復帰してからの自分の頑張りが重要と気づき、育児休業中に悩んでいても解決しないことでした。

復職後も子供の体調不良で急な休みや早退、入院により長期間お休みをいただくこともありました。その度に申し訳ない気持ちになりますが、会社や職場の人たちの理解があって仕事と育児を両立することが出来ています。急な対応になることも多々あり迷惑を掛けているはずなのに嫌な顔をせず「仕事は大丈夫。すぐに迎えに行ってください。」といつも優しくしてくれる周囲の人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。

1度目の産休・育休の間にコロナ禍ということもありペーパーレス化やオンライン、リモートへの対応に

より会社の体制が大きく変わっていることを聞いていた為、すぐに対応できるか不安でした。実際に復職した際に最初は戸惑いました。しかし、その新しい体制により何度も救われました。保育園に通うようになると毎月のように感染症やコロナの濃厚接触者となり保育園を休ませざるを得ない事が何度もありました。元気になっても指定の日数は休まなければなりません。「また何日も休まなければならない…。」申し訳なさや業務が予定通り進められず悩んでいた時に、自宅からリモートで仕事をさせていただけることとなり、予定通り業務を進めることができ新たな体制で働きやすさを感じました。

また子育てを通して、自分自身の働き方や考え方も変わりました。保育園のお迎えがあるため終業時間になるとすぐに会社を出なければなりません。以前は「あと少しやってから」と退社することもありましたが、その10分、20分程度も今は余裕がありません。時間を考えながら退社時に中途半端にならないよう、翌日スタート良く始められるように、今まで以上に限られた時間の中で仕事を進める努力をするようになりました。そして仕事のブランクを埋めるため、いつ急な休みになってしまっても大丈夫なように、仕事のやり方を考え、周囲とのコミュニケーションを積極的にとり細かな情報の共有を図るようになりました。

時間管理の徹底、コミュニケーション、業務の効率化どれも当たり前のことですが、その大切さをより一層考えさせられました。

仕事と育児の両立が始まって毎日忙しく過ごす中で1番に感じたことは、育児休業の期間はとても尊い貴重な時間だったということです。出産してから毎日ずっと一緒に居るのが当たり前で過ごしてきた時間が、貴重な時間だったことに気づきました。正直、小さな子供とずっと一緒に過ごし人と会話することが少ない生活のなかで、社会から離れて不安や焦りが大きくなっていました。育児休業期間が長くなるにつれ、早く仕事に戻りたいと思うようになっていました。しかし、24時間子供と一緒に過ごしていたところから、

復職すると一緒に居られるのは14時間ほど。その内の起きている子供と過ごす時間は4～5時間程度となり、その時間も育児や家事にと慌ただしい毎日で子供に向き合って過ごす時間はほんの僅かです。気が付くと出来る事が増え、あっという間に大きくなり、日々成長していく姿を見ていると、子供と接する時間が非常に少ないことを実感します。

今回2度目の育児休業を取得するにあたり、前回感じたことを振り返り、今回生まれた娘と上の息子のケアも含め全力で子供たちと向き合う時間に徹しようと考えました。

実際に1人目の出産～復職を経験したからこそ、今回の育児休業を全力で子供のことだけを考えて育児に専念出来ているのだと思います。

生まれたばかりのころは、とても小さく寝ていることがほとんどでしたが、徐々に起きている時間も長くなり一生懸命声を出して呼ぶ姿、力強く体を動かしたり、名前を呼ぶとニコニコ笑いながら手を伸ばす娘の姿に毎日元気と幸せをもらっています。出産してから5ヶ月が経ちましたが、日々成長していく姿に毎日一喜一憂しとても尊い時間を過ごしています。ママっ子だった息子が今は「ぼく、いっちゃんが大好き過ぎる！」と口癖のように言い、毎日妹に絶え間なくくっつき、一緒にお世話や絵本を読んであげて楽しそうに話し掛けている光景は何ものにも代えがたい日々です。

赤ちゃんの成長はとても早いもので、育児休業が終わるころには今見ている姿とは大きく変わり、離乳食が進んでいろんな物を食べたり、伝い歩きをしているのだろうと今から成長が楽しみです。

これから始まる2人の子供達の育児と仕事の両立は大変ですが、私にとって働くことは社会と繋がる大切な場所です。子供から離れ仕事をすることによって社会人としての自分を大切に、仕事以外の時間は母親としての自分を大切にしながら頑張る姿を子供たちに見せていきたいと思っています。

今回、育児休業と仕事について改めて考える機会を頂き、今はまだ周囲の人たちに支えられてばかりですが、これから先、職場の方たちが同じように子育てや介護などで大変な時に支えることが出来るような人になりたいと改めて思いました。

育児休業を取得させていただき、子供との必要な大切な時間を過ごさせていただけているのは、会社や職場の方々の理解とサポートがあってです。感謝しながら、今しかない娘とのふれあいを大切に、残りの育児休業期間を有意義なものにしていきたいです。



写真1 いつまでも仲の良い兄妹でありますように。

フィリピン滞在記

株式会社建設技術研究所 水野直弥

1. はじめに

私は静岡大学で地質学を学び株式会社建設技術研究所（CTIE）に入社以来、土木地質に係る業務に従事している。2018年6月～2022年11月の4年半の間、私はグループ会社である株式会社建設技研インターナショナル（CTII）に出向して海外業務に従事した。CTIグループは中長期ビジョンとしてグローバルインフラソリューショングループを目指しており、出向完了後も当該ビジョンを背景としたグループ内連携を図るため引き続き海外業務に従事している。そこで、本誌紀行文の執筆にあたりアジア開発銀行（ADB：Asia Development Bank）出資のプロジェクトに従事するため、昨年4月～5月の約2ヶ月間、フィリピンに滞在した際の仕事（現地調査）や生活の思い出を振り返ってみたい。

2. 国際開発金融機関による発展途上国の支援

(1) 国際開発金融機関とは

国際開発金融機関（MDBs：Multilateral Development Banks）は、途上国の貧困削減や持続的な経済・社会的発展を金融支援や技術支援、知的貢献を通じて総合的に支援する国際機関の総称で、一般的に全世界を支援対象とする世界銀行（World Bank）と各所轄地域を支援する4つの地域開発金融機関を指す。



図2.1 MDBs
出典：財務省ウェブサイト

(2) MDBs案件のビジネス機会

プロジェクトは、借入国政府とMDBsが発掘（立案）する。プロジェクト情報（PID：Project Information Document）は、各金融機関のウェブサイトで公開されている。企業や個人はPIDを確認して関心表明書（EOI：Expression Of Interest）を提出し、その後に提案書を提出する。

先進国の物価高や昨今の円安を考えると、価格競争では日本の企業や個人が有利ではないだろうか。

なお、EOIや提案書の提出に先立ち、個人や企業は各国際金融機関が有するシステムに登録する必要がある。今回私が参画したプロジェクトの場合、ADBのコンサルタントマネジメントシステム（CMS：Consultant Management System）にまず個人を登録した後、所属会社と紐づける手続きを行った。

登録後には当該システムから毎週コンサルタント募集の案内が届く。興味のある方は、ADB-CMSのホームページを閲覧いただきたい。

3. 参画したプロジェクトの概要

私が参画したプロジェクトは、ADBが出資してフィリピン国政府が行う洪水リスクマネジメント業務である。このため、日本の国土交通省にあたるフィリピンの公共事業道路省（DPWH：Department of Public Works and Highways）のもとで、プロジェクトを遂行する。本プロジェクトの対象河川は、ミンダナオ島のAllah川、ネグロス島のIlog-Hilabangan川、パナイ島のAklan川の3つの河川である。

本プロジェクトは、計画（MP：Master Plan）だけでなく、実行可能性調査（FS：Feasibility Study）を含むプロジェクトであるため、CTIIは他社とのJVで参画しており、多数のエンジニアが在籍している。

その中で、私はGeologistとして配置され、流域の地形・地質調査に携わる機会を得た。

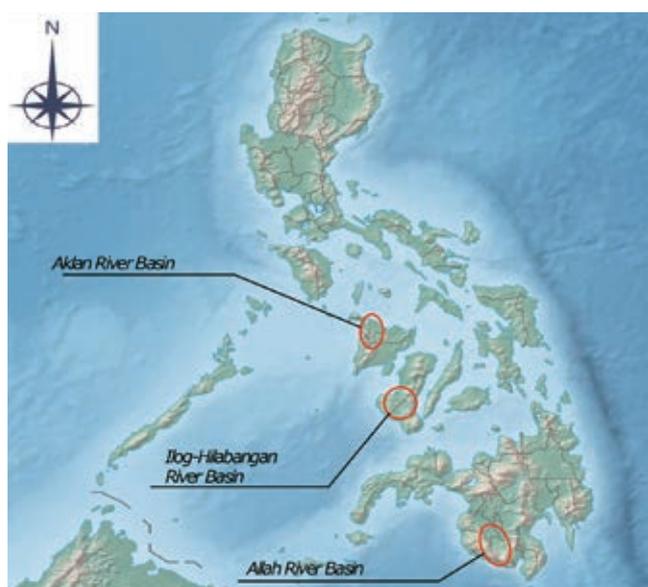


図3.1 対象流域の位置図
注) Philippines relief location map .svgに加筆

4. 現地調査

(1) 現地調査の実施にあたって

本プロジェクトの事務所は、ルソン島に位置するフィリピン国の首都マニラに設置されている。

しかし、本プロジェクトの対象河川は別の島にあるため、現地調査はマニラから出張する形となる。

現地調査の実施にあたっては、各対象河川流域を管轄するDPWHの方に同行いただき、各村の村長さんに挨拶し調査目的・地点を簡単に説明した。すると村長さんは親切に現地案内役の村人を手配してくれたので比較的スムーズに現地調査を実施することができた。

次節では、各河川流域の地形・地質概要を、現地調査の体験談を交えてご紹介させていただく。

(2) アラ (Allah) 川

アラ川流域は、ミンダナオ島の南西部に位置し流域界は南北に細長い形状をなす。アラ川は、流域南端に位置するパーカー山（標高1,824m）に源を発し、流域の高度分布にしたがって北方に流下する。下流域にはリグアサンマーシュ（Liguasan Marsh）と呼ばれる湿地帯が広がっている。

流域の地質的特徴として、パーカー山が第四紀に形成されたデイサイト質火山で、1641年の噴火により山頂にカルデラ湖（モーガン湖）が形成された（写真4.1）。このため、パーカー山周辺には火砕流堆積物が広く分布し、河床材料は砂を主体とする。土砂災害という観点では、1995年にモーガン湖の出口付近の斜面が崩壊して天然ダムを形成し、その決壊がもとで大規模な土石流が発生したことが記録されている。

現地調査ではアラ川の源であるパーカー山に登り、



図4.1 アラ川流域の地形図
注) <https://ccop-gsi.org/main/>の地形図に加筆



写真4.1 乗馬による登山(左)とモーガン湖(右)

(3) イログ-ヒラバンガン (Ilog-Hilabangan) 川

イログ-ヒラバンガン川は、ネグロス島の北西部に位置する。当該流域には主要河川としてタブラ (Tabla) 川、イログ川、ヒラバンガン川の3河川が流下する。

タブラ川およびイログ川流域は、丘陵地が広がり河川沿いには段丘が分布して谷幅は広い。ヒラバンガン川流域は起伏の大きな山地を有し、谷は狭くV字谷をなす。このような地形の違いはもちろん地質を反映している。イログ川、タブラ川流域には新第三紀の堆積岩が広く分布し、ヒラバンガン流域には火山岩が広く分布する。

現地調査では、船に乗って河口と三角州の状況を確認することができた。流域の上流から河口・海岸まで広く見る機会を得たことは、流域の地形・地質および土砂動態を考察する上で貴重な経験であった。



図4.2 Ilog-Hilabangan川流域の地形図
注) <https://ccop-gsi.org/main/>の地形図に加筆



イログ川流域



ヒラバンガン川流域

写真4.2 流域の地形

(4) アクラン (Aklan) 川

アクラン川はパナイ島の西部に位置する。アクラン川は、流域南部の山地に源を發し、デュマライライ (Dumalaylay) 川やティンババン (Timbaban) 川などの支川と合流しながら、北方に流下している。

これらの支川は流域西部の起伏の大きな山地に源を發する。この山地は西パナイ断層と呼ばれる明瞭なり

ニアメントで画されている。

現地調査では、DPWHの方の案内で西パナイ断層沿いを流下するアクラン川上流まで行くことができた(写真4.3)。

その地点には一番近い村の中心から徒歩で1時間以上かかる。一時一人で歩いていた時にスコールに遭遇した。しかたなく雨の中を歩いていると、道沿いにあった家の軒先から住民の方に話かけられた。

最初は村人でない私を怪しんでいる様子であったが、私がDPWHの仕事をしていると伝えると、親切にも雨宿りさせてくれた。軒先のテラスには大家族がいたが、その家の息子らしき若者が祖父母や両親のタガログ語を英語に訳してくれた。私の片言の英語では必ずしも会話がよくできなかったが、帰り際には「家族と写真を撮らせてくれ」と言われ、その申し出をありがたううれしく思った。



図4.3 Aklan川流域の地形図
注) <https://ccop-gsi.org/main/>の地形図に加筆



写真4.3 西パナイ断層沿いに流下するAklan川

5. マニラでの生活

(1) 全般

マニラでの滞在先は、BSA Twin Towers Hotel という55階建てのホテルであった。

ホテル前の大通りを挟んだ向かい側にはメガモールという名の巨大なショッピングモールがあり、外食には困らない。

部屋にはキッチンがあり、ホテルの1階にはコインランドリーもあった。そのコインランドリーには「Drop off」というサービスがあり、追加料金を払うとお店の方が洗濯してくれるので数時間後に洗濯物(きちんと畳まれている)を受け取りにすればよい。私はこのサービスがとても気に入り毎回利用した。

(2) アクティビティ

現地での勤務は週休2日であったが、現場への出張が多かったこと、土日に別業務の仕事を片付けたりしていたので週末を暇に過ごすことはなかった。

3連休くらいあればセブ島やボラカイ島などに行くこともできたと思う。

滞在期間中に一度だけ、CTIIの若手技術者に誘われて日帰りでルソン島南部のアニラオ(Anilao)にスキューバダイビングに出かけた。店の前からボートで少し沖にあるダイビングスポットに向かい、数年ぶりに海中遊泳を楽しんだ(写真5.1)。



写真5.1 ダイビングショップからの眺め

ホテル前のメガモールにアイススケート場があることを知り、子供の頃からアイススケートやローラースケートが好きだった私は、帰国間際の週末に行ってみることにした。

週末ということもあり、スケート場は予想以上に混んでいた(写真5.2)。

料金システムやスケート靴の借り方がよくわからず少々手間取りながら、やっとスケートリンクに入場し、1時間ほどアイススケートを楽しんだ。

久しぶりの運動で筋肉痛になったことも含め、フィリピンでのアイススケートはいい土産話になった。



写真5.2 メガモールのアイススケート場

6. おわりに

私にとって、ADBのプロジェクトへの参画、フィリピンでの長期滞在は初めてであった。

本プロジェクトは、4社のJVで参画しているためグループ会社のCTIIだけでなく、他社の技術者と一緒に仕事をすることができた。また、フィリピン人である政府機関や地元の方、プロジェクトスタッフなど多くの方々と交流することができたことに感謝している。

ところで文化的というか、職場環境的にも印象的だったのは、本プロジェクトの事務所がある政府の建物に犬や猫が出入りしていたことである。

なぜ犬や猫が出入りするのかと、フィリピン人に聞いてみたところ、建物の警備員が暇な時に飼い主のいない犬や猫にエサをあげるので居着いてしまう、このような事はフィリピンではよくあるそうだ。

その建物を利用している方々は、犬や猫の出入りには寛容であり、心のゆとりを感じた。廊下で犬や猫が寝ている風景を見て、心がなごむのは私だけではないと思う(写真6.1)。

残念ながら、現在はプロジェクト事務所が移転したため、次回の勤務ではその風景を見ることができないが、新たな風景に出会えるのを楽しみにしている。

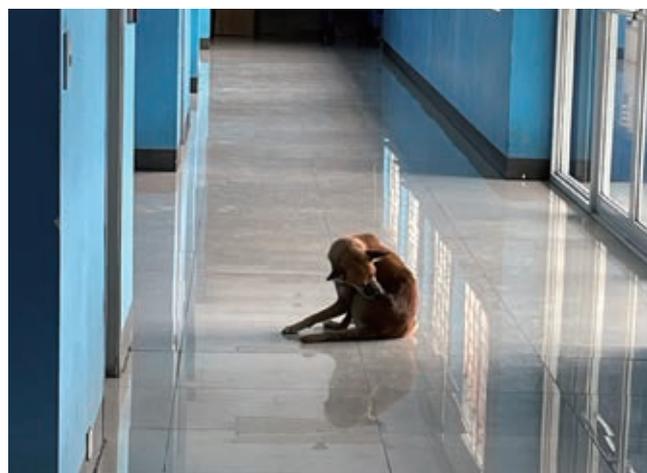


写真6.1 建物の廊下で過ごす犬

令和5年度河川講習会「河川分野のインフラDX」

技術部会 河川専門委員
アジア航測株式会社 黒岩知恵

1. はじめに

(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部では、国土交通省東北地方整備局河川部との意見交換を通じて「技術力の維持・向上」に取り組んでおり、その一環として平成24年度から継続して河川講習会を合同開催しています。令和5年度の河川講習会は、“河川分野のインフラDX”をテーマとして開催されました。本報では、同講習会の開催要領と講演の概要を紹介するとともに、講習会を受けた感想を述べます。

2. 講習会の開催要領

令和5年度河川講習会は、令和5年11月27日に仙台市内において対面方式で開催され、当日の参加者は91名でした(表-1、図-1)。

講習会では、東北地方になじみの深い官民学の皆様より、河川分野のインフラDXに関する4題目の講演・技術発表がなされました。

3. 講演の概要

各講演及び技術発表の概要を紹介します。

①東北地整における河川DXの取組みについて

講演では、インフラ分野におけるDXの背景と現状、DXアクションプランの概要の説明がありました。また、東北管内の河川DXの事例として、緊急対応と普段使いの両方を見据えた3次元管内図の整備、ITを活用した樋門・樋管操作支援システムの構築や管理ダム放流設備の遠隔操作化、非接触型流量観測に基づく次世代型流量観測システムの構築など、様々な事例について最新の取組みが紹介されました。

②BIM/CIMによる情報マネジメントと河川インフラDXへの展開

蒔苗教授からは、河川インフラへのBIM/CIM適用のポイント、情報マネジメント、情報通信技術との連携事例やその可能性についての講演をいただきました。インフラ分野のDXを実現するためには、インフラのライフサイクルの中で徹底した業務フローの見直しが必要であり、部分最適から全体最適への転換が重要であるとの指摘がありました。インフラの情報マネジメントとしては、100年先の未来を見据えた情報マネジメントの系統的な枠組みの構築、BIM/CIM/DXのなかで知識・知恵を蓄積・継承する仕組みが必要であるとの説明がありました。

また、デジタルツインと河川DXの展開として、デジタルツイン上で災害予測シミュレーション・ハード対策・ソフト対策を実装した総合的な治水のイメージ

表-1 令和5年度河川講習会の開催要領

主催	(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部 技術部会
共催	国土交通省 東北地方整備局
参加者	国土交通省 東北地方整備局 4名 建設コンサルタンツ協会 87名(合計91名)
日時	令和5年11月27日(月) 13時20分~16時30分
場所	ハーネル仙台3階 蔵王A, B
講演内容	①『東北地整における河川DXの取組みについて』 東北地方整備局 奥山河川情報管理官 ②『BIM/CIMによる情報マネジメントと河川インフラDXへの展開』 宮城大学事業構想学群 蒔苗教授
技術発表	③『鳴瀬川総合開発事業におけるCIM活用の取組について』 鳴瀬川総合開発工事事務所 佐々木調査設計課長 ④『UAV写真測量の水理解析への活用について』 パシフィックコンサルタンツ(株) 井上氏



図-1 令和5年度河川講習会の様子

「女性技術者」と自身の在り方

応用地質株式会社 柳川 未奈

1. はじめに

2015年4月に入社し、もうすぐ9年に差し掛かります。大学では地質と名のつく学科ではありましたが、現在携わっている業務とは離れた内容を学んでおりましたので、大学の頃の自分が見たら「一体、毎日何をやっているんだ？」となると思います。

大学の学科での男女比もそこまで現状と変わらないため、自分自身で違和感なく部署の男女比を受け入れている中で、「女性技術者の声」という題材で原稿の依頼を頂きました。

2. 「女性技術者」とは？

AIチャットの力を借りると、曰く「女性技術者」とは、技術分野で働く女性を指すそうです。少し調べてみますと、働く女性の割合は平成2桁代からゆるやかに上昇し令和5年で80%程度だそうです。男性の就業率は90%程なので、男女ともに8~9割前後と就業率でみればそんな変わらないと感じます。

ただ、「女性技術者」の割合はわかりません。少ないと言われておりますが私の入社した年の同期でいうと、2~3割は女性でした。程々にいたのではと思います。

3. 「女性技術者の声」

ここまで書きながらも、私が「女性技術者」という観点でお届けしたい“声”は特段ありません。“結婚”“出産”等、女性ならではのトピックスを経験していないからです。また、仕事を始めて今まで、「女性技術者だからこうなんだ」という場面にはあまり遭遇しませんでした。

強いて言えば、力不足でボーリングコアをひとりで持てないときがあります。その時は、どなたかに協力してもらいます。ただ、こちらも男女関係なく重いものは重く、適材適所ですので、「女性技術者」特有という話題ではないかと思います。逆に、「男性技術者」の方が、これをここに運ぶから手伝ってなど力仕事を要請されているのをよく見かけます。「男性技術者の声」もまた面白いのではないのでしょうか。

4. 「女性技術者」の存在

配属先が同じ同期は、私以外男性でしたがプライベートで遊ぶ際も声をかけてくれるような優しい心の持ち主たちでしたので、環境に恵まれて疎外感もなく

過ごしました。

ただ、どんなところでも仕事をやっていけるという自信が私になかったため、配属先に「女性技術者」の先輩がいてとても安心したことをこの題材を頂いた時に思い出しました。

同期も上司も優しく、嫌だという訳ではなく、右も左もわからない新入の私にとって、同じ性別の先輩は指標であり、抛り所のような存在でした。

「女性技術者」に括って、特に印象深いのはそんなところでしょうか。そんな先輩の存在が目標で、今も仕事を続けることができているようなものだと思っています。

5. 自身の在り方

「女性技術者」は全体からすると少ないです。ただ、建設コンサル業界全体として、若手技術者・担い手不足とも言いますので、技術者全体が減少傾向と言えます。離職率も若い方が高いようです。

今後、私が「女性技術者」としてどうなっていきたいかという目標はありませんが、「こういう人でも仕事を続けられているのだから、少し続けてみようかな」と思わせ、誰かの目標にはならずとも、男女関係なく僅かでも離職率を抑えられるような存在でいたいです。

産休・育休のような内容はいろいろところで議論されており、経験していない人間が言えることはあまりにも浅いので、「女性技術者の声」で求められているような題材から大きく脱線してしまったと思います。私自身としましては、これから建設コンサル関係の仕事を考えている人が「男女比」や「労働環境」など、仕事内容と関係ない部分で、やりたいのに踏み出しづらいような状況が起きないように、まず自分の手の届く範囲で、より良い職場環境を作っていきたいと思っています。



写真1 【同期達に散歩してもらい幸せそうな飼い犬】

災害大国の土木技術者として

株式会社ドーコン 吉川直子

1. はじめに

令和6年の幕開けは地震とともに始まりました。

穏やかな1年を願った矢先に能登半島地震が発生。緊急地震速報が携帯やテレビ、地域ラジオから一斉に鳴り響き、さらに津波警報発令。東日本大震災の惨状の記憶がよみがえりました。

2. 災害対応の経験

私の災害対応の経験は入社後すぐに始まりました。十勝沖地震、翌年の台風18号による落橋など、連続して災害の現場に直面しました。

一刻も早い復旧を目指し、不眠不休で働く先輩方の姿から、技術者の矜持を感じたことを思い出します。東日本大震災では復興支援メンバーとして仙台に赴任。

待ったなしの状況で常に緊張状態の大変な期間でしたが、復興に向けたこれらの経験が現在の私の基礎になっています。

3. 土木との出会い

土木との出会いは、学生時代に遡ります。大学では建築を学んでいたのですが、在学中に訪れた国で、街・建物を守り、活用する人々の姿勢を知りました。

就職活動を行う中で、人・街に結びつきが強く、生活の中で大きな役割を担う土木の道を選択しました。

橋梁設計を担当していますが、同じものはひとつもなく、毎回試行錯誤の日々です。

常に勉強で、悩むことも多いですが、それでも続けていられるのは、地域の実状に合わせ検討を繰り返し、裏付けされた専門技術と様々な角度からのアイデアによって作り上げるという点に魅力を感じているからだと考えています。

4. チームワーク

どんなに高い技術力を持っていても、全てを1人で完遂させることはできず、協力し合いながら作り上げていきます。

業務を進めていく過程で、様々な考えがぶつかることもしばしばあります。気持ちをひとつにし、同じ目標に向かって自分の役割をしっかりと果たすこと、それに加え、他の人の動きに目を配り寄り添うチームワークが大切だと、最近特に感じるようになりました。

また、発注者、設計者、有識者など立場は違いますが、それぞれが一市民であることに違いなく、いかに安全に、利用しやすい社会基盤を整備するか、災害時に少しでも被害を小さくするためには何ができるか、官民学一体となって丁寧に考えることも、土木の特徴ではないかと思えます。

先日の能登半島地震発災後、東日本大震災、熊本地震に続き「トモダチ作戦」が実行されています。

また、いち早く支援を開始した国からは「日本の有事は、自国の有事」というメッセージが送られました。

大変な時こそ寄り添ってともに支え合うことの大切さに触れ、そうありたいと改めて感じた年始でありました。

令和6年元旦の能登半島地震により、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

社会人になって思う事と今後の目標

三井共同建設コンサルタント株式会社 新井 涼 介

1. はじめに

入社してからあっという間に5年が経ち、時間が過ぎることの早さを日々痛感しています。

入社当時から主に橋梁の設計に携わっており、入社3年目に転勤が決まったことで、現在は東北事業場で業務に尽力しています。

人生で初めての東北でしたが、周りの方々も暖かく向かえ入れてくれて、上司や先輩方にご指導いただきながら日々精進しております。

このような貴重な機会をいただいたので、改めて社会人になって思う事と、今後の目標について述べていきたいと思っています。

2. 社会人になって思う事

入社当初は、社会人になって右も左もわからない状態で生活と仕事を両立させることの難しさを実感したことを覚えています。

日々学び、調べながら業務を遂行していくなかで、わからないことばかりでしたが、ある瞬間に点と点が繋がったように内容を理解できた感覚がありました。

その時、どんなに小さいことでも次に繋がられる喜びを感じたため、日々の経験を「繋げる力」が大切だと思っています。

業務によっては、突発的に急を要する場面があるので、臨機応変で柔軟な対応が必要となります。

その際は、過去の経験を踏まえて迅速な対応に活かせる場合が多いため、過去を振り返る瞬間でもあります。

また、各業務に携わる中で自身でメモ一覧を残しておき、その都度収集、整理を行うことを習慣づけ、忘れることのないよう努力しています。

3. 今後の目標

今後の目標は、作業ボリュームの把握と予測、精度の向上です。どちらも自分の中で苦手意識があり、つい怠ってしまうことがあるのですが、まずは後回しにしないことと事前準備を怠らないことから始めようと

考えています。

特に前述の「繋げる力」により、これまでの経験から大体の作業工程や必要な技術スキルなどを予測できるようにはなってきたので、目標実現のため精進しています。また、社内の上司や先輩方の良い部分を真似して、まだまだ半人前の自分の技術力を高められるよう心掛けていきたいと思っています。

4. おわりに

私は、自分の部署にはまだ後輩がいたことがなく、ずっと一番年下のまま5年目になってしまいました。

もう何人も後輩がいる同期がいますので、自分にも後輩の面倒を見れる機会が来ることを楽しみにしています。自分の先輩が私に良くしてくれたように、今後配属されるであろう後輩のためにも、カッコいい先輩になれるよう経験を積んでいきたいと思っています。

また、東北は過ごしやすいのですが、冬は何と言っても寒く、未だに慣れずに良く体調を崩してしまいます。

体力をつけるためにも、最近は休日に運動することを心がけており、ゴルフを始めました。体調管理に気を付けて充実した社会人生活を送りたいです。



写真1 会社の人と海の近くでゴルフ！

私らしくいられる時間

株式会社ダイエツ 村上清文

1. はじめに

この趣味を始めてからもう何年になるだろう？ 思えば今年で42年目になります。

この趣味（バドミントン）は、中学校の部活動をきっかけに始めました。思い起こせば、中学校時代（旧西根中学校）、生徒数が少数であったこともあり、男子は、野球部かバドミントン部の二つしかなく、二つから選ぶしかない状況にありました。

間間に見てる前で三振するのが恥ずかしく、みっともない姿を見られるのが格好が悪いと思った私は、バドミントンなら打つラケット面積も大きく、きっと空振りすることはないだろうなんて単純な理由でバドミントン部に入部しました。

入部が決まった時には、早速、親にバドミントン部に入った報告をしました。

当時はメジャーなスポーツではなく、人気もさほどではなかったものでしたから、特に父親は、男は、野球、サッカー、柔道だろうという考えの人だったので、そんな女の子がするような部活に入ると、あまりいい顔はされませんでした。

しかし、実際のバドミントンの競技自体の中身は、スピード、瞬発力、体力、精神力が揃ってないと競えない競技でありました。

これは全ての競技に言える事ではあるかもしれませんが、特にスピードに関しては、スポーツの中では、最速と言われています。

最大の魅力は、オリンピック選手レベルでスマッシュが450～460km/sとされる攻撃です。

このショットを軸に多彩な技を組み合わせる緩急をつけたり、フェイントを入れたり、裏をついたりして、ゲームを作っていきます。

2. 若き日の一番の思い出

長くこの競技を続けてきた中で、いろんな思い出が脳裏を巡ります。

一番印象に残っている思い出は、平成11年時の高校の同級生とダブルスを組んで出場した市20周年記念大会での優勝でした。

トーナメント方式で負ければ即、敗退というスリルのある形式でした。

試合の中で大きな山となった試合は、準決勝での仙台大学とのエースダブルスとの一戦でした。

全国から集まった体育会系の選りすぐりの選手たちだったので簡単な相手ではないと最初から分かっていました。

試合が始まる前までは、彼らのスピードに付いていけるか、パワーでは打ち負けしないだろうか等、不安と緊張感で頭の中がいっぱいでした。

いざ、試合が始まった際には、攻守ともに牙えわたり、彼らの攻撃を見事にはね返し、自分達のペースで連続して攻撃に転じる事ができ、後にも先にもない最高の試合運びができ、ストレート勝ちで決勝に勝ち進むことができました。

決勝では、準決勝の勢いそのままに快勝し、記念大会に名（歴代の記録）を刻むことができました。

今、振り返っても、あの試合が一番輝いていたし、パートナーとのコンビネーション、連携、意思疎通が図れた最高の試合でした。

仕事においても同じことが言えると思いますが、一人での力は微力ではありますが、二人の力が重なり合った時の力は、二倍、三倍ではなく計り知れない無限大の力を発揮することを知った気がしました。

この経験を活かし、趣味の世界でも仕事においても、パートナーや関係する人達には、お互いの持っている最大限の潜在能力を発揮してもらうために、常に声を掛け合ったり、アドバイスをしたり、話を聞いてあげたりして環境作りに配慮しています。

コミュニケーションを深めることで、バドミントンでは勝利を目指し、仕事に於いては品質の良い成果品を目指して、皆様から感謝されるように日々努めています。



写真1 【基本的な構え】

3. 現在の私

今は、体力もパワーも落ちてしまいましたが、今までの試合経験で培ったノウハウやゲーム作り等を活かして、自分の子供や学生の方を中心に指導を行っています。

指導の時は、アドバイスの仕方しだいで相手への伝わり方が変わってきますので、相手のやる気を損なわないようにもっとバドミントンが楽しくてしょうがないと思えるように、モチベーションが上がるような点に配慮をおいて指導にあたっています。

私の子供は中学2年生になります。この間、新人戦がありました。結果は仙台の中学校にぼろ負けでした。試合後、悔しそうな表情を浮かべてる子供に声をかける言葉すら見つかりませんでした。帰りの車で、落ち着きを戻した子供は、「勝ちたい」と言って練習を志願してきました。

二人で敗因を探って、もう一度一からやり直す気持ちで頑張ってみようと思いました。

負けたことは、とても悔しい現実ではありましたが、負けたことによりそれをばねに頑張る気持ちが沸いて前を向いて進もうとしている姿勢を見たときに、逆に目を覚まして今以上に必死にやろうという気持ちになってくれたので、結果的にこれで良かったのではないかと思います。

最初から何でもトントン拍子に物事が運ぶよりは、失敗や負けたことにより学ぶことが大きいのではないかと思います、とてもよい経験になったのではないかと思います。目指すは、来年の中学総体です。

地区予選を突破し、宮城県ベスト8進出を目標に掲げています。私の指導と子供の気持ちが重なれば可能性は十分にあると信じています。毎週、日曜日を練習日にしています。だんだんと力はつけてきています。

後は、ミスをしないという意識と戦術面でどのコースに打てば効果があるか、相手の弱点はどこなのか、競った場面での精神面の強さ、相手に向かっていく強い気持ちだと考えています。

今のような課題が克服されればきっと目標は達成すると思っています。



写真2 【新人戦の試合模様】

4. 夢

指導にあたっての内容を記載してきましたが、私には、最後の挑戦があります。それはシニアの全国大会で優勝することです。

運よくまだ大きな病気や怪我もなくここまでやってきているので、このチャンスを活かして集大成に臨みたいと思っていました。

勝手な思い込みですが、そのステージで待っているライバルたちがいるような気がしてならないのです。

小さなきっかけからの部活選りから、ここまでバドミントンを続けてきたことが不思議でなりません。この先も継続していく意欲はあります。最後にこの趣味に出会えたことと夢中になれたことに感謝したいと思っています。

また、今こうして健康でいられることと、練習や試合の時は何も言わずに送り出してくれる家族に心から感謝したいと思います。

※これを読んで下さった皆様とこの競技をする機会があるかもしれません。その時はよろしく願います。

※使用ラケット：ASTOROX88D PRO

※好きな選手：ピーターゲード・クリステンセン
(デンマーク)

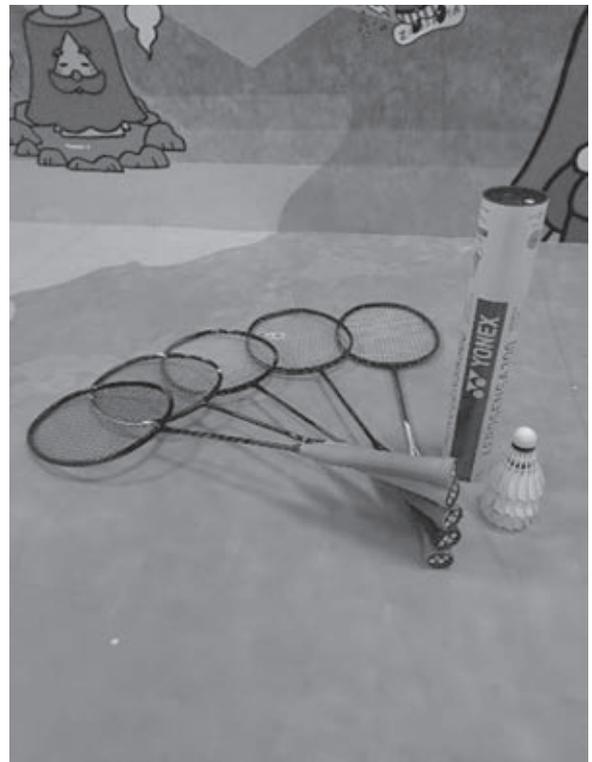


写真3 【大切な道具】

松川浦周辺について

サンコーコンサルタント株式会社 内藤 信悦

はじめに

今回は、私が生まれ育った福島県相馬市東部にあり、日本百景にも選出されている「松川浦」をご紹介します。

松川浦は、相馬市の太平洋側に面した潟湖です。その大きさは、松川浦県立自然公園を中心に南北に約7km、東西に約1.5kmほどであり、現在も海苔やカキの養殖が盛んな地域です。相馬市は平将門を祖とする相馬氏に由来し、「相馬野馬追」が開催される地区でもあります。



写真1 松川浦

歴史的背景

松川浦は、江戸時代から明治時代まで製塩事業が行われ、明治のころに北側河口付近を掘削し、東側にあった水路が自然と砂州が形成され閉ざされ現状に近い地形になったといわれています。昭和26年に松川浦県立自然公園として指定され、平成13年には日本の重要湿地500にも選定されています。

現在は、県道38号線の整備及び松川浦大橋の架橋により周遊出来るようになってきました。しかし東側堤防や海岸は、東日本大震災の津波により海岸部に甚大な被害が出ました。

その後、強固な堤防道路が整備復旧され、のどかな景色を堪能する風景へと戻りつつありましたが、令和4年3月の震度6強の地震により再度被災し、現在も復旧工事中です。松川浦周辺の地元の方々は、東日本大震災より激しく揺れたと言っているようです。

観光的な見どころ（レジャー・散策）

北東側先端には夕顔観音・奥の院を経て鶴ノ尾崎灯台への散策路があります。灯台付近からは天気の良い日は牡鹿半島なども見え、太平洋や松川浦を望む景色は一度見る価値はあると思います。松川浦には小島も点在しており「小松島」とよばれ、よく地元のパンフレットに使われる文字島などが点在しています。幼少の頃はよく釣り好きの祖父に連れられ、その一つである機械島に渡船し、かき氷を食べた記憶が良い思い出として残っています。

松川浦大橋周辺は、公園も完備されており、原釜尾浜海水浴場や周辺砂浜でのサーフ釣り（投げ釣り）や、釣り桟橋からのハゼ、カレイ、アイナメ、アナゴ等が狙えます。秋口には鮭も釣れるということで、釣り好きにはたまらない人気のスポットとなっています。また、松川浦大橋を含め周遊道路も整備されているので散策におすすめの場所です。

土木的な見どころ

松川浦大橋は、原釜・尾浜地区と磯部地区を結ぶ全長520mの橋で平成7年に完成しました。張り出し架設工法で施工された3径間連続PC斜張橋であり、よくこの場所にこれだけの橋を架けたと思われるような壮大な眺望が望めます。松川浦北側河口に整備されている相馬埠頭や、相馬火力発電所と相まってライトアップされた夜間の景色も更に綺麗です。



写真2 松川浦大橋

松川浦周辺の散策から少し足を延ばし、車で約20分程度の市内中心部へ足を運ぶと、鉢巻石垣を形成する小丘陵に築かれた城である相馬中村城（正式には陸奥中村城）があります。

これは「相馬野馬追」の地であり、今は城郭跡と外大手一ノ門が残っています。

相馬中村城は、今から1400年前の平安時代に築かれたと記録にあるようですが、現状の近世城郭へ改修したのは「関ヶ原の戦い」以後とのことです。戦国の世に隣国伊達氏との抗争の最前線たるべく、相馬藩主相馬昌胤が築城（改築）した城で、昔の外堀や内堀などの面影は現在も少し見られます。



写真3 相馬中村城

先ほども述べた令和4年3月の地震により、相馬中村城の石垣も崩れており、修復待ちのようです。

相馬野馬追は、この城横にある相馬中村神社境内が出陣式の間であり、出陣式の様子は壮大で馬列の出陣には圧倒されます。

西側の宮城県丸森町まで足を延ばすと相馬公と対峙した伊達政宗公初陣の「矢野目館跡」があり、現在も石碑や看板が残っています。

おわりに

相馬野馬追は例年7月に開催されていましたが、今年（令和6年）から5月開催となります。

「相馬野馬追」の出陣式を見学した後、相馬中村城址跡を散策し、松川浦周辺へも足を延ばしてのんびり歴史を感じ、散策するにはもってこいの場所ではないかと改めて思います。

松川浦では「ほっき飯」をはじめとした海産物料理にありつけ、土産にも事欠かず、また釣り好きには尚更であると故郷の良さを再認識しました。

現在、松川浦東側の県道38号線周辺は、東日本大震災の影響により松林が無く（現在植林生育中）、松川浦全体の景色が一望できるのは今だけと言えるかもしれません。



写真4 松川浦鵜ノ尾崎灯台南側駐車から

令和5年度講演会 Vol.1 報告

広報委員 大場 秀行

1. はじめに

令和5年11月29日14:00~17:00、仙台市戦災復興記念館において、恒例の建設コンサルタンツ協会東北支部主催の講演会が開催されました。

今年は5月8日から新型コロナもインフルエンザと同じ5類に指定されたことから、コロナ前の活気に満ちた世の中へ



と大きく舵が切られています。そのため、講演会も昨年や一昨年のように上限50名といった枠を設けずに大勢の方をお呼びしたいと企画し、103年の時を経て東北の地に甲子園の優勝旗を持ってきてくれた仙台育英学園高等学校の須江監督をお呼びすることにしましたが、監督の都合と空き会場の都合で大きな会場の準備が出来ず定員270名の仙台市戦災復興記念館での開催となり、会員以外の一般の方々を優先した講演会となりました。

会場は予想通り満員御礼の状況でしたので、会員企業の方々が聴講出来ないといった問題もありました。

しかし、支部長の計らいで後日、令和6年2月5日に講演会Vol2として同会場で会員向けに同じ講演会を開催する運びとなりました。



満員となった会場の様子

2. 講演会の様子

講演会は「東北の未来を育む」をテーマとし、上野広報副委員長の司会進行で幕を開け、最初に菅原支部長による主催者側を代表しての挨拶が行われました。



司会進行の上野副委員長と壇上の様子

次いで、来賓挨拶として東北地方整備局企画部長の宮本様よりご挨拶を頂きました。宮本企画部長からは、国として防災減災、国土強靱化を重点とした事業をしっかりと行うこと、少子高齢化に伴う人口減少や建設業の担い手不足を補うためにも発注者として必要な働き方改革に力を入れるといったお話を伺いました。



開会挨拶される菅原支部長

最初の講演者は、福島大学人文社会学群経済経営学類准教授の村上早紀子様です。村上先生は、秋田県羽後町ご出身で、弘前大学大学院地域社会研究科博士後期課程を修了、そのまま都市計画、まちづくりを研究され、令和元年から福島大学にて教鞭をとられており、地域経営、都市・地域計画、まちづくり、地域公共交通を専門とされています。



来賓挨拶される宮本企画部長

今回は「まちを育む」として、「まちづくり」から「まち育て」へ（地方都市の「場所」と「交通」の視点から）と題してお話を頂きました。



村上先生講演の様子

従来まちづくりは、成長や開発を目的に行われてきましたが、人口減少の今日では「まち」が使い手や住み手のいない「空間」となっており、この「空間」の再編作業として、その空間をどの様に育て、使い手、担い手が居てアクティビティが伴う「場所」に変えていくか、そのための「人」をどのように育てるかが大事であるとお話を伺いました。また、移動手段としての車の運転が出来なくなった高齢者の暮らす交通空

白地域の公共交通について、NPOや地域住民組織による輸送システムの運営で地域の生活を支え持続可能とする取り組みについても紹介頂きました。そして最後に、「まち育て」にはゴールがなく、困難も伴うが「小さく・段階的に」進めることが重要であるとの話で締めくくられました。

続いて「建設コンサルタントが育むもの」と題して建設コンサルタント協会東北支部の松尾新二郎技術部会長から「事業紹介」があり、建設コンサルタントとはどういうものなのか、建設コンサルタントの仕事の紹介、東北で建設コンサルタントが育むものについて、一般の方々に分かり易く伝えて頂きました。



事業紹介される松尾技術部会長

最後は103年の時を経て令和4年夏、白河の関を越えて東北地方に初の甲子園優勝旗をもたらした仙台育英学園高等学校硬式野球部監督の須江航様による講演が行われました。



須江監督講演の様子

須江監督は、埼玉県のご出身で高校から仙台育英学園高等学校に入学し野球部に入部しましたが、周りとの実力差を感じ高校2年よりグラウンドマネージャーを務めていたそうです。その後、大学野球で実力のある八戸大学（現八戸学院大学）に入学され硬式野球部の学生コーチとして経験・実績を積んでおられます。大学卒業後は地元埼玉での教員を目指していましたが、高校時代の恩師から声が掛かり、仙台育英学園系列の秀光中学教育科学学校に情報科教諭・野球部監督として就任し創部直後だった野球部を8年後には全国優勝まで導いています。

平成30年1月からは仙台育英学園高等学校の硬式野球部監督に就任され、同年には夏の甲子園切符を勝ち取り、その後は甲子園でも毎年優勝候補と言われるチーム作りを重ね、令和4年夏の甲子園で遂に白河の関を越えて東北勢初の優勝を果たしています。更に令和5年の夏は2年連続での決勝進出を果たし、惜しく

も2度目の優勝とは成りませんでしたが東北に勇気と感動を与えてくれました。

須江監督からは「ひとを育む」の題で仙台育英学園高等学校が優勝に至る逸話を前段にお話し頂き、本題のひとの育て方、特に若い人たちの育て方についてお話を頂きました。仙台育英学園高等学校優勝の逸話では、2018年の夏の甲子園初戦で埼玉県の浦和学園に0対9で負けた時の敗戦監督インタビューで、「1,000日後には日本一になる」と言ったそうです。また、翌2019年の夏の甲子園では4回戦（準々決勝）で石川県の星稜高校に1対17で負けた時の敗戦監督インタビューでも「近い将来多くの選手、多くの投手を使った面白い野球をする」と答えたそうです。

その後、2020年は新型コロナで春、夏共に甲子園大会が無くなり、2021年は地区予選で敗退しましたが、2022年夏に優勝し、新型コロナで中止となった1年を除けば1,106日目で優勝したことに成り、強引ですがほぼ1,000日後の優勝は有言実行になったとおっしゃっていました。また、面白い野球も実践され、一試合当たりの出場選手数が過去最多、投手登板数過去最多、過去の優勝校の最多投球数が過去最少であるといった形での優勝だったそうで、こちらも有言実行と言える状況でした。

本題の「ひとの育て方」については、①失敗は挑戦の証であり多くを学べるので失敗させること、大人が失敗を乗り越えて挑戦する姿をみせること、②個別指導で相手の話を聞き相手に合った指導をすること、③目標に向かうため何が必要でどうすべきかをきちんと説明して指導すること、④失敗を叱らずに過程をほめること等今どきの若者の育て方を話され、人生は敗者復活戦であるとの言葉が印象的な講演でした。また、本日の講演内容は自身が発行する書籍に書かれていますとの宣伝も笑いを誘うひと場面で楽しい講演でした。

講演会の最後は、菊池広報委員長の閉会の挨拶で幕を閉じ、令和5年講演会も成功裏に終わることが出来ました。



閉会挨拶をされる菊池広報委員長

令和5年度講演会 Vol.2 報告

広報委員 大場 秀行

1. はじめに

令和6年2月5日14:00～17:00仙台市戦災復興記念館において、本報告に記載したとおり建設コンサルタンツ協会東北支部の会員向けの講演会が開催されました。

本講演会は11月29日に一般の方を中心に募集をした結果、一般の方々だけでほぼ満員となったため会員の皆様は聴講できないことになってしまいました。

そのような状況の中、支部長の計らいで講演会Vol.2として同会場で会員向けに同じ講演会を開催する運びとなったものです。年2回の講演会開催は建設コンサルタンツ協会東北支部としては初めての事であり、異例の事ですので講演会報告も2編掲載した次第です。

2. 講演会の様子

講演会は本講演会と同様「東北の未来を育む」をテーマとし、上野広報副委員長長の司会進行で幕を開けました。

最初に本年元旦に発生した能登半島地震の犠牲者の冥福を祈り1分間の黙とうを行い、その後菅原支部長による開会挨拶が行われました。

最初の講演者は、本講演会と同様に福島大学人文社会学群経済経営学類准教授の村上早紀子様です。

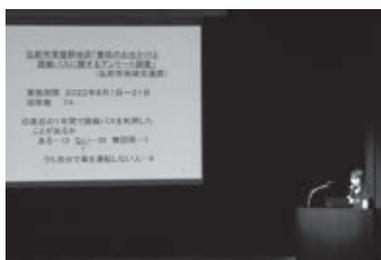
講演の内容も本講演会と同様でしたが、改めて少子高齢化による「まち」の空洞化や公共交通が行き届かない孤立集落の地域対策の重要性を痛感しました。



能登地震の犠牲者への黙とう



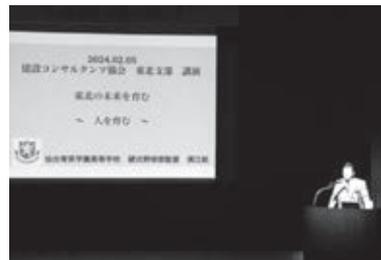
開会挨拶される菅原支部長



村上先生講演の様子

人口問題研究所の推計によると、2050年には東北地方の人口は587万人と2020年に比べ68%に減少すると予想されており、65歳以上の高齢者も40%以上となるそうです。そうなる人が住まなくなる地域が発生するとともに、少数の高齢者だけで生活するような地域が増加して集落の孤立化が益々進むと思われ、その対策は切実な問題であると考えさせられました。

二人目の講演者も本講演会と同様、103年の時を経て令和4年夏、白河の関を超えて東北地方に初の甲子園優勝旗をもたらした仙台育英学園高等学校硬式野球部監督の須江航様です。



須江監督講演の様子

講演の内容は、本講演会とはほぼ同様でしたが、本講演会で話されたような優勝までのエピソードは殆ど話されず、若い方の「育て方」を中心に予定時間を10分以上超過されるほどの熱弁をいただきました。

講演後の質疑応答では、若い技術者の方が「育てられる側」はどのような心構えが必要なのかと質問され、須江監督は人の意見を聞ける素直な心を持つことと回答されていました。講演会の終了後、事務局側へ育てられる側からの質問を受けたことに対し、大変感激しており、講演を行った甲斐があったと満足気に話されていたのが印象的でした。

講演会の最後は、菊池広報委員長の閉会の挨拶で幕を閉じ令和5年講演会VOL.2も成功裏に終わることが出来ました。



閉会挨拶をされる菊池広報委員長



令和5年度 道路専門委員会・構造専門委員会合同技術講習会

技術部会 道路専門委員 佐々木 勝

1. 日時・場所等

- ・令和5年9月27日（水）（13:00～16:45）
- ・ハーネル仙台2階 松島
- ・講習会形式・参加者数 対面方式、69名
- ・主催
技術部会道路専門委員会及び構造専門委員会
- ・講習会主旨

担当技術者の技術力向上を目的として、毎年「道路事業を取り巻く最近の話題」をテーマとした講習会を開催しております。

2. 講習題目と講師

講演Ⅰで「アフターコロナの自転車施策～国内外の動向～」と題しまして、株式会社ドーコン 東日本事業本部 東京支店事業部 小美野智紀おみの ともり様に御講演を頂きました。（写真1・写真3）



写真1

講演Ⅱで「最近の道路構造物に関する話題～道路インフラの老朽化対策～」と題しまして、東北地方整備局道路部道路保全企画官の小山田桂夫おやまだ かつお様に御講演を頂きました。（写真2・写真4）



写真2

3. 講習会の内容

(1) アフターコロナの自転車施策

～国内外の動向～

道路の計画・設計の中で自転車交通は考慮すべき事項であり、最新の自転車施策は必要不可欠な情報となります。これまで、平成30年6月に「第1次自転車活用推進計画」が策定され、令和3年5月に「第2次自転車活用推進計画」が閣議決定されました。

第2次計画は、コロナ禍で経験してきた社会情勢の変化に対応する自転車活用の推進に関する目標及び実施すべき施策が盛り込まれており、今後の道路事業の中でも自転車利用の形態はとても重要な施策となっています。その様な観点からアフターコロナの自転車施策について国内外の動向も含めて、最新情報を御講演頂きました。

主な講演内容は以下の通りです。

- ・コロナ禍における通勤・配達目的での自転車利用ニーズの高まり
- ・情報通信技術の飛躍的発展
- ・高齢化社会の進展等、昨今の社会情勢の変化等を踏まえ、現計画から取組を更に強化



写真3 ▲小美野氏講習状況



写真4 ▲小山田氏講習状況

(2) 最近の道路構造物に関する話題

～道路インフラの老朽化対策～

道路は人々の日常生活や経済活動の基盤を構成する重要な要素であり、老朽化した道路インフラの効率的な更新・再構築が必要とされています。

近年、気候変動の影響により気象災害が激甚化・頻発し、南海トラフ地震等の大規模地震に備える必要があるため、高度成長期以降に集中的に整備された道路インフラの老朽化対策が急務となっております。そこで、最近の道路構造物に関する話題として、防災・減災・国土強靱化を加速させる基本的な考え方・最新の取り組み方や事業規模・対策期間等について御講演を頂きました。

主な講演内容は以下の通りです。

- ・ 令和5年度の予算関係
- ・ 道路に関する最近の話題
- ・ 道路施設のメンテナンス状況
- ・ 道路メンテナンスに関する話題
- ・ 東北地方におけるコンクリートの品質確保に向けた取り組み
- ・ 維持管理のフィードバックから『気づき』による設計の見直し～復興道路・復興支援道路の取り組み～
- ・ 事例紹介（最近、思っていることから）

4. 所感

これからの道路事業において、自転車ニーズの高まりはコロナ禍における生活様式や交通行動の変容により、利用性向上が重要となってきたと思います。

公共交通との連携による自転車通行空間の設置やシェアサイクル、バスや電車による同乗移動等、安全に配慮しながらエネルギーの削減や環境にやさしい取り組みを考える上で、大変参考になりました。

道路インフラの老朽化対策については、建設後50年を経過した橋梁、トンネル等が早期又は緊急に措置を講ずべき状態にあることを再認識しました。このことは道路事業に携わってきた技術者として、最新の技術による修繕対策が必要であると同時に、今後のインフラ整備においても、三次元測量による作業効率化の推進、コンクリートの品質確保技術の向上、これまでの維持管理におけるフィードバックからの『気づき』による設計の見直し等についても技術者としてとても良いアドバイスを頂き、大変参考になる内容でした。

令和5年度 意見交換会について

対外活動委員長 江 藤 和 昭

建設コンサルタンツ協会の重点活動としております発注者との意見交換会は、建設コンサルタンツ協会本部の要望と提案事項の他、支部会員からのアンケート調査、発注者の実態を把握・調査したものを加えて、役員会に諮り議題を定め、令和5年10月11日秋田県との意見交換会を始めに令和5年11月28日の仙台市で終了しました。

1. 概要

各発注者との意見交換会の開催時期及び議題の概要は表1のとおりです。

2. 意見交換会における議題

(協会からの要望と提案)

- I. 担い手確保・育成のための環境整備
- II. 技術力による選定
- III. 品質の確保・向上
- IV. 「DX推進の環境整備」
- V. その他

(新たなインフラ活用の推進等：東北地整)

3. 意見交換会で進捗が図られた内容

今年度、建コン東北支部として進捗が図られた内容は以下のとおりと考えられます。

①国交省東北地方整備局に要望した以下の項目は、意見交換会時に前向きな回答が示されており、一定の成果を上げることが出来ました。

- ・履行期限の平準化と平準化国債、機動的国債、事業加速円滑化国債の積極的な活用。
- ・年度末納期と公示時期の分散化。
- ・『土木設計業務等変更ガイドライン』の適切な運用。
- ・『若手・女性・シニア技術者配置促進方式』の積極的試行。
- ・歩掛が無い業務の『プロポーザル方式』の採用。
- ・国土交通省登録資格の組合せ加点評価の検討の継続。

- ・一括審査方式の継続。
- ・発注者協議会での品確法運用指針の周知。
- ・『技術力評価チャレンジ型』の積極的な試行。
- ・指定仮設の適切な費用計上。

②自治体からは、以下の前向きな回答が得られました。

- ・青森県：難易度の高い業務はプロポーザル方式の活用。情報共有システムの導入。
- ・岩手県：適切な契約保証と前払い金の契約取り扱い。地域要件の区域の見直し。
- ・秋田県：事務負担軽減による総合評価落札方式の発注拡大と評価項目の改善。
- ・宮城県：価格点の見直しと実施方針の評価方法の改善。手持ち制限による低入札の抑制。
- ・山形県：指名型総合評価の電子入札システム化。総合評価の発注拡大。行政手続きのDX化。
- ・福島県：災害協定見直し検討の継続。電子契約システムの導入。情報共有システムの活用推進。
- ・仙台市：総合評価落札方式の導入。採用見積値の改善検討。全庁の電子入札システム化。

③令和5年度の意見交換会においても岩手県及び福島県との災害協定改定についても議論されており、令和6年度における進展が期待されます。

表1 意見交換会の開催時期及び議題の概要

発注機関	開催概要	議題等
秋田県	開催日 R5年10月11日(水)	I：納期の平準化と実態に合わせた履行期間の確保、DX対応等新たな取り組みや好事例の水平展開、災害時における改正労働基準法遵守に向けた施策、インフラ整備の安定的な事業量の確保、若手・女性技術者の評価の更なる引上げを要望。 II：難易度の高い業務におけるプロポーザル方式への積極運用、実施方針のみを評価する総合評価落札方式の導入、一般競争入札の削減、広域コンサルタントに表彰枠の拡大、市町村における最低制限価格の導入促進、共同設計・JV方式の多様な契約方式による実績拡大を要望。 III：追加業務や修正設計における適切な工期設定と費用計上、点検・診断における仕様や積算条件の明確化と適切な積算価格の設定、実務者会議での課題共有を要望。 IV：受発注者協働による働き方改革に資するDX推進、マニュアルの電子化・Web公開、BIM/CIM対象業務の発注と受発注者双方での課題共有を要望。
	出席者 川辺建設部長 他7名 菅原支部長 他21名	
福島県	開催日 R5年10月17日(火)	I：納期の平準化と県債・翌債等の活用推進を要望。発注時における条件明示の徹底による標準履行期間を踏まえた適切な履行期間の確保を要望。夜間や休日の作業等、実際の作業に見合った適切な費用の計上を要望。災害協定書の内容の見直しを要望。CM業務の拡大を要望。設計変更ガイドラインの適切な運用を要望。 II：プロポーザル方式・総合評価落札方式の拡大を要望。入札調書のweb上で検索可能なシステムへの改善を要望。総合評価落札方式における若手技術者・女性技術者の効果的な活用を要望。業務表彰を加点対象としての項目追加を要望。地域コンサルタントの技術力向上、品質向上に資する業務の拡大を要望。 III：合同現地踏査の拡大、条件明示チェックリストの有効活用、三者協議の活用を要望。高度な技術を要する補修・補強設計はプロポーザル方式での発注を要望。民間資格活用促進を要望。 IV：電子契約システム活用、情報共有システム導入、遠隔臨場の促進、各種技術基準の電子化・Web公開を要望。
	出席者 曳地土木部長 他10名 菅原支部長 他26名	
山形県	開催日 R5年10月19日(木)	I：債務負担行為、繰越明許費、ゼロ県債・ゼロ公債を活用した納期の平準化を要望。深夜対応、休日出勤の設計変更ガイドラインに基づいた費用計上を要望。業務スケジュール管理表・条件明示チェックシートの効果的な活用を要望。電子契約システムの導入を要望。災害対応時の適切な費用計上を要望。インフラ整備の中長期事業計画の策定・公表と安定的な事業量の確保を要望。若手・女性・シニアなど多様な技術者の活用を要望。 II：プロポーザル方式・総合評価落札方式による発注拡大を要望。地域コンサルタントの技術力向上が図れる仕組みの導入促進を要望。 III：設計目的・設計条件・成果内容の明確化と適切な費用計上を要望。三者協議による追加業務や修正設計の費用計上を要望。 IV：電子契約システムの導入とペーパーレス化を要望。遠隔臨場の積極的な活用を要望。発注者のテレワーク環境整備の加速化、各種技術基準類の電子化・Web公開などの推進を要望。
	出席者 竹内県土整備部技術統括監(兼)次長 他6名 菅原支部長 他21名	
東北地整	開催日 R5年10月31日(火)	I：履行期限の平準化と標準履行期間の確保を要望。確保できない場合の履行期限の速やかな延期を要望。ワークライフバランスの更なる改善に向けての施策の推進・強化を要望。プロポーザル方式・総合評価落札方式業務の公示・提案時期の分散化を要望。労働基準法第33条第1項の適切で確実な適用が実施されるよう要望。地方自治体における災害申請作業の合理化・適切化に関する改善と適切な費用計上を要望。LPデータを結合したデータベース化を要望。緊急的な災害対応業務に対する表彰制度を要望。災害対応に関するPR活動の強化を要望。国土強靱化や社会資本整備重点計画推進のための安定的な事業量の確保を要望。「土木設計業務等変更ガイドライン」の補足資料の策定を要望。「若手・女性技術者配置促進方式の試行」の業務規模拡大を要望。 II：業務内容に応じた適切な発注方式の選定(斜め象限図)を要望。国土交通省登録資格組合せ評価試行の適切な運用を要望。一括審査方式の採用更なる拡大を要望。拡大型プロポーザル方式の継続と改善を要望。地域コンサルタントの拡大と育成に資する発注を要望。 III：受発注者合同現地踏査の実施を要望。条件明示チェックシートの運用の推進を要望。指定仮設における費用計上と三者協議による追加業務や修正設計の費用計上を要望。ECI方式の試行を要望。 IV：契約関係書類の電子契約システム活用による完全ペーパーレス化を要望。業務成績評定点とプロポーザル方式の特定までの経緯のWeb公開を要望。
	出席者 宮本企画部長 他7名 菅原支部長 他20名	
宮城県	開催日 R5年11月2日(木)	I：履行期限(納期)の分散化と平準化を要望及び履行期間の適正化を要望。ワークライフバランスの改善に向けての施策の推進・強化を要望。災害時における既往業務の効果的な業務中止命令、工期延期の実施、管理技術者の交代要件の緩和等を要望。遠隔地からの支援も視野にいれた旅費・滞在費用精算のルール化を要望。安定的かつ継続的な予算の確保を要望。 II：プロポーザル方式の積極的な採用及び斜め象限図の積極的な運用を要望。総合評価落札方式における標準型及び簡易型(実施方針型)の適用拡大を要望。総合評価落札方式における評価方法の改善を要望。R2年度の実施方針改定の効果の検証を要望。一括審査方式の導入を要望。調査基準価格・失格基準価格の引き上げを要望。低入札に対する抑止力の強化を要望。成績調書統計資料等の公表を要望。 III：合同現地調査の実施による情報共有を要望。三者会議の実施を要望。ECI方式の導入を要望。 IV：電子契約システム、情報共有システムの導入を要望。テレワーク環境の整備推進を要望。BIM/CIM活用モデル業務の推進を要望。
	出席者 齋藤土木部副部長 他7名 菅原支部長 他19名	
青森県	開催日 R5年11月7日(火)	I：履行期限(納期)の平準化と標準履行期間の確保への取組み強化を要望。実態に即した適切な費用計上と特記仕様書への具体的な記述を要望。総合評価方式における、技術提案書作成期間の延長を要望。災害対応時の実際の作業に見合った積算歩掛の適用と実際にかかった費用の適切な精算を要望。社会資本整備、及び維持管理予算の安定的かつ継続的な確保を要望。最低制限価格(調査基準価格)及び失格判定基準のさらなる引き上げを要望。若手技術者の管理技術者配置の配点(評価点)大幅引き上げを要望。 II：プロポーザル方式・総合評価落札方式による発注量の増加を要望。総合評価落札方式の評価方法の改善を要望。「共同設計方式(JV)」制度の導入を要望。 III：設計条件明示チェックシートの活用拡大を要望。工事に至る段階(三者協議含む)での追加業務、修正設計の実施と適切な費用計上を要望。道路橋メンテナンス技術講習達成度試験合格者、河川維持管理技術者、河川点検士の活用促進を要望。 IV：電子契約システムと情報共有システム(ASP)の導入を要望。遠隔臨場の積極的な活用を要望。BIM/CIM活用の業務価格の算定方法の見直しを要望。
	出席者 永澤県土整備部長 他12名 菅原支部長 他20名	
岩手県	開催日 R5年11月16日(木)	I：履行期限(納期)の平準化と標準履行期間の確保への取組み強化を要望。受発注者協働によるワークライフバランスの改善に向けての施策の推進・強化を要望。災害協定書の内容更新を要望。緊急的な災害対応業務実施に対しても表彰制度導入を要望。事業監理業務(CM業務)の拡大を要望。低入札における契約補償と前払金の契約取り扱い制度の更新を要望。シニア人材活用制度の創設を要望。一括審査方式の導入を要望。入札結果、積算内訳等適正な情報公開を要望。 II：更なる技術力による選定の採用拡大を要望。プロポーザル方式の採用拡大を要望。簡易1型(技術提案あり)の対象業務を体系化(マニュアル化)を要望。表彰業務の評価項目への追加を要望。実績要件(県内限定)の緩和を要望。 III：受発注者合同現地踏査の積極的な実施を要望。条件明示チェックシートの積極的な作成・活用を要望。工事調整会議(三者会議)の活用を要望。 IV：電子契約システムの構築を要望。情報共有システム(ASP)の積極的な活用を要望。BIM/CIMの積極的な活用を要望。
	出席者 加藤県土整備部長 他5名 菅原支部長 他20名	
仙台市	開催日 R5年11月28日(火)	I：履行期限(納期)の平準化と標準履行期間の確保への取組み強化を要望。ワークライフバランスの改善に向けての施策の推進・強化を要望。紙入札の廃止を要望。災害時における既往業務の効果的な業務中止命令、工期延期の実施、管理技術者の交代要件の緩和等を要望。災害対応時の実際の作業に見合った積算歩掛の適用と実際にかかった費用の適切な精算を要望。国土強靱化や社会資本整備重点計画推進のための安定的な事業量の確保を要望。若手技術者の表彰制度等、モチベーション向上が期待される制度の創設を要望。 II：プロポーザル方式の発注拡大と総合評価落札方式の導入を要望。見積の採用方法の見直しと事前開示を要望。地域コンサルタントの技術力向上が図られる仕組みの導入を要望。 III：受発注者合同現地踏査の実施を要望。「条件明示ガイドライン」の作成と「条件明示チェックシート」の活用検討を要望。関係機関協議の詳細については特記仕様書への記載を要望。三者協議による追加業務や修正設計の費用計上を要望。設計条件の変更の際の適切な費用計上。登録技術者資格の活用促進を要望。最低制限価格の導入を要望。 IV：全庁における電子入札システムの運用を要望。電子契約システムの導入検討を要望。BIM/CIM活用を要望。
	出席者 反畑都市整備局長 他10名 菅原支部長 他20名	

意見交換会

写真1 秋田県建設部との意見交換会

会場：ホテルメトロポリタン秋田



写真5 福島県土木部との意見交換会

会場：杉妻会館



写真2 山形県県土整備部との意見交換会

会場：山形県自治会館



写真6 東北地方整備局との意見交換会

会場：パレスへいあん



写真3 宮城県土木部との意見交換会

会場：TKPガーデンシティ仙台勾当台



写真7 青森県県土整備部との意見交換会

会場：ウェディングプラザアラスカ



写真4 岩手県県土整備部との意見交換会

会場：プラザおでって



写真8 仙台市都市整備局との意見交換会

会場：TKPガーデンシティ仙台勾当台



総務部会の紹介

総務部会長 長 南 憲 一

1. はじめに

建設コンサルタンツ協会東北支部の総務部会は、部会長と副部会長の支部役員と7名の総務委員及び平成28年7月に設立された総務部会に所属する若手の会で組織されております。

2. 委員紹介

委員は以下の通りです。

部会長	長南 憲一	(株)長大
副部会長	伊藤 清郷	陸奥テックコンサルタント(株)
委員	橋場 定雄	アジア航測(株)
委員	井戸川 賢	大日本ダイヤコンサルタント(株)
委員	中野 健	大日本ダイヤコンサルタント(株)
委員	浅田 耕司	(株)復建技術コンサルタント
委員	池田 裕一	(株)オリエンタルコンサルタンツ
委員	山口 隆之	セントラルコンサルタント(株)
委員	安倍 忠和	(株)長大

3. 活動内容

総務部会の活動は研修会及び会員相互の親睦、健康増進及びリフレッシュを図ることを目的とし、会員交流会やスポーツ行事等を企画しております。新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら2019年より開催出来ておりません。

また、若手技術者の活性化と技術交流を図る目的で下記、「若手の会」の活動を積極的に支援しております。

- ・東北若手の会WEB交流会
- ・学部生との座談会
- ・東北地方整備局若手職員との交流会
- ・東北各県定例会（協会員以外との交流会）
- ・若手技術者アンケート及びインタビュー
- ・SNSを利用した情報発信
- ・ボランティア活動

研修会は、独占禁止法等コンプライアンス遵守の啓蒙の一環として、6団体共催（共催団体：日本補償コンサルタント協会東北支部、宮城県測量設計業界、東北測量設計協会、東北地質調査業協会、全国上下水道コンサルタント協会東北支部、建設コンサルタンツ協会東北支部）でのコンプライアンス研修会を実施しております。令和5年度はWEBではありましたが、公正取引委員会事務局及び宮城県警察本部の方々を講師として招き、「入札談合と独占禁止法」、「サイバー犯罪と対策」について講話いただきました。

また、未来の技術者である高校生を対象に、橋の模型づくりの体験を通じて、橋の知識の習得とともに、社会を支える基盤となる橋等土木構造物への理解を深めていただくため、高校生「橋梁模型」作品発表会に実行委員の一員として参加し、発表会当日は会場設営補助や受付を担当しております。また、技術部会からの応援をいただき審査員としても参加しております。平成14年度から毎年開催され、令和5年度で22回目の開催となります。第1回目は宮城県内の土木系学科からの応募でしたが、現在は東北6県からの参加となっております。このイベントは建設業界に入ってくる若者が減少していく状況の中、官民学が協力して新しい担い手を確保しようという思いもごございます。（共催団体：東北地整東北技術事務所、東北地整東北道路メンテナンスセンター、日本橋梁建設協会、PC建設業協会、東北地域づくり協会、橋梁調査会、建設コンサルタンツ協会）

未来ある高校生が建設業界にもっと興味を持ってもらうためにも、会員のみなさまとともに盛り上げて行ければと思っております。引き続き多くのみなさまの来場をお待ちしております。（「写真1」・「写真2」）

委員会紹介



写真1 第21回高校生「橋梁模型」作品発表会審査会会場全景



写真2 第21回高校生「橋梁模型」作品発表会審査会記念撮影

4. おわりに

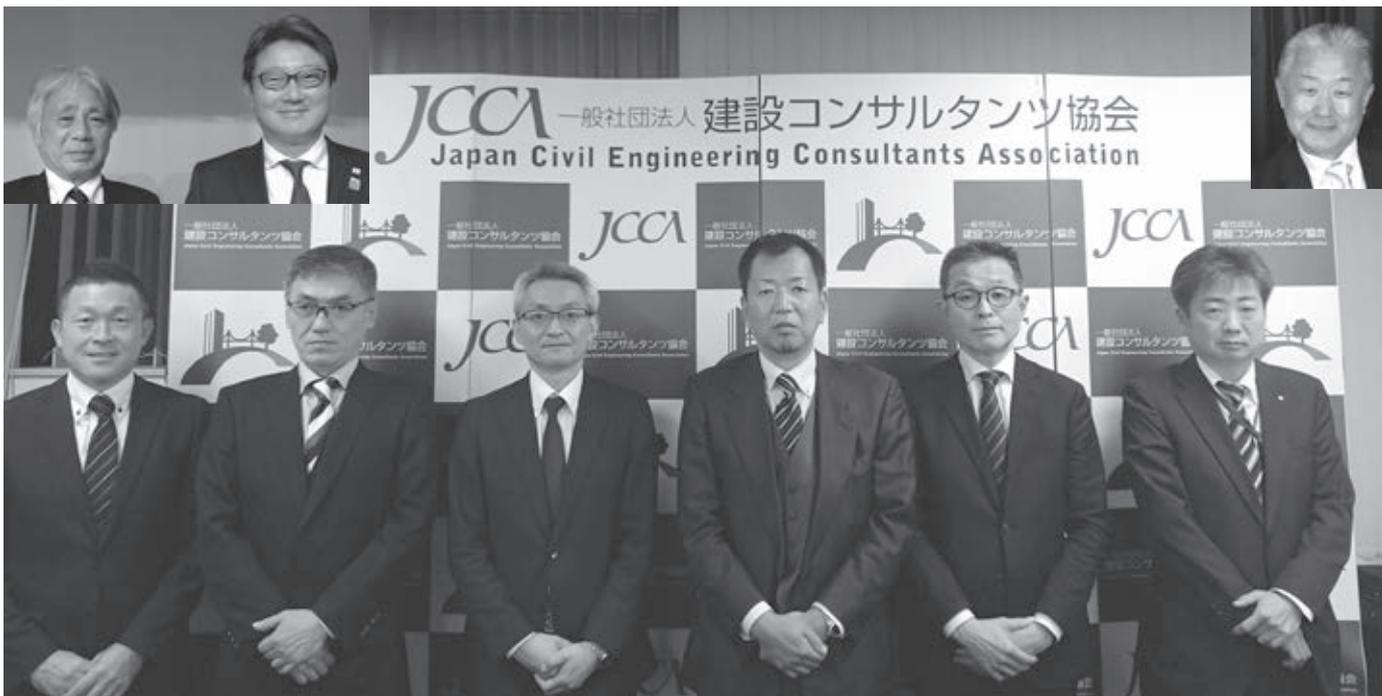
総務部会では、毎年皆様に喜んでいただける厚生行事を考えております。新型コロナウイルス感染症の影響でこれまで開催することができませんでしたが、令和6年度より順次開催したいと考えております。まだまだ会員皆様すべての希望にお答えできるような対応はできておりませんが、さまざまなご意見等を伺いながら改善を図っていきたいと考えております。ご希望やご意見等ございましたら、建設コンサルタンツ協会東北支部までお寄せ下さい。

引き続き、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

池田

伊藤

井戸川



浅田

安倍

山口

長南

中野

橋場

写真3 総務部会委員

「福島県若手職員×建コン若手の会交流会」

総務部会 若手の会

三井共同建設コンサルタント株式会社 東倉 弘晃

1. 福島県交流会

建コン東北支部若手の会（以下、建コン）では、宮城県を除く東北5県の若手技術者との交流を目的とした「各県交流会」を実施してきた。

新型コロナウイルス感染拡大による休止期間を経て、前回の岩手県交流会から約4年振りの開催となった「福島県交流会」について、以下に概要を示す。

■福島県交流会の概要

【日 時】 令和5年8月10日（木）13:00～17:00

8月11日（金）10:00～12:00

【方 法】 対面開催@福島県郡山市民交流プラザ
（ビッグアイ6・7階）大会議室2

【参加者】 若手の会（16名）、公募者（11名）計27名

【内 容】 経営者による講演、グループディスカッション、発表・質疑応答

【テーマ】 業界の「3UP」を目指して～スキル・イメージ・キャリア

業界の抱える課題である人材育成・技術継承・キャリア形成・3Kイメージ脱却等について、スキルアップ、イメージアップ、キャリアアップの3つの「UP」をテーマに地域コンサルならではの視点やアイデアを持ち寄り、業界の発展と若手技術者の団結につなげる。

2. 経営者による講演

今回の交流会テーマに対する話題提供として、陸奥テックコンサルタント株式会社 代表取締役社長の伊藤様より講演をいただいた。

講演では、経営者の視点から昨今の建設業界を取り巻く社会・就業環境の変化に関する話題提供、若手職員の3UPに向けた取り組みと若手職員へ期待すること・問題提起など、大変参考となる内容であった。

3. 交流会で挙げられた意見および講評

グループディスカッションの後、各グループから発表があり、挙げられた意見が共有された。

テーマ「キャリアアップ」では、多様な働き方の実現や給与水準の向上の他、成長するための道のりを明



写真1 全体集合写真

確にする、身近な参考例の共有などの意見が挙げられた。

テーマ「スキルアップ」では、資格取得や技術継承のための社内勉強会、BIM/CIM・ドローンなどの新技術への挑戦の他、それらにチャレンジするためのモチベーションUPに向けた取り組み、ナレッジの共有方法などの意見が挙げられた。

テーマ「イメージアップ」では、情報発信のためのSNS活用、マスコットキャラクター作成、職場環境の充実の他、TVや漫画による業界の紹介、業態の技術をテーマとしたゲーム制作など、若手職員ならではのユニークなアイデアが共有された。

4. 振り返りと反省点

- ・約4年振りの開催となった各県交流会は、タイトなスケジュールにもかかわらず若手の会メンバーの協力により無事に開催することができた。
- ・福島県内で活躍する若手職員と、お互いのモチベーションアップにつながる有意義な交流ができた。
- ・交流会のテーマ、ディスカッションの時間配分、円滑な進行のためのメンバー配置など、今後の対面による交流会開催に向けて改善すべき点を若手の会メンバー内で共有することができた。

5. おわりに

若手の会交流会WGリーダーとして、様々な交流会の企画・運営に携わることができ、私自身の成長にもつながる良い機会を得たと感じています。改めて、交流会開催に向けて尽力いただいた若手の会メンバーに感謝いたします。

令和5年度 構造専門委員会「現場見学会」に参加して

株式会社協和コンサルタンツ 浜野 友希

1. はじめに

令和5年12月6日（水）に、建設コンサルタンツ協会東北支部主催の伊達橋橋梁撤去工場の現場見学会に参加した。

自身も橋梁設計に携わっているが、実際に施工現場を見学する機会は少ないことから、この見学会は大変意義を感じるものとなった。

2. 見学時の施工内容

見学会実施日は、伊達橋の上部工撤去のための架設桁の添接ボルト締めを行っている最中であった。実際に架設桁の送り出しを行っている所を見ることは出来なかったが、現場のスケール感や、設計から施工段階に至るまでの方針転換等の興味深い話を施工業者より伺いすることが出来た。

3. 現場での着目点

伊達橋撤去工事において、着目すべきは伊達橋の撤去工事が権限代行により東北地方整備局による発注となったことが挙げられる。

次に、伊達橋がトラス橋であるため架設桁による撤去工法をとっていること。伊達橋の上部工は死荷重が大きく、これを支持させるための架設桁は製作品でなくてはならず、仮設費が大となることから、中部地方整備局で実施した別件の撤去工事に用いた架設桁を伊達橋上部工撤去工事にも転用していることが着目点として挙げられる。管轄を跨いだ連携による工事費削減、工期の短縮を達成した本業務は、経済性に大きく寄与するモデルケースとして大変参考になった。

中でも、個人的に最も注目したのが、撤去設計時の計画を工事の段階で一部変更していたことである。設計段階では架設桁の組み立てヤードをA1橋台背面としていたが、同箇所にかかる高圧線の迂回が難しく、必要ヤードが確保できない状態となっていた。ここで工事では、A1橋台前面の高水敷にベントを仮設し、これを架設桁の組み立てヤードとする方針をとっていた。このため、上部工の撤去は当初通年施工となって

いるところを非出水期施工としていることが大きな変更点となっており、工期短縮を目的に、架設桁設置前にトラベラークレーンによる縦桁撤去を先行して行う等の対策が採られていた。橋梁撤去に関わらず、施工計画における現地踏査等による周辺状況の確認や、関係者協議によるコントロール条件確認の重要性を改めて実感するに至った。



写真1 高水敷内にて架設桁を組み立てている様子

4. おわりに

設計に携わる身として本見学会は、現場の規模感や設計から実際の工事に至る流れを確認出来た意義のある催しであった。方針や現場での作業を見ると、発注者、設計業者、工事業者間での綿密な協議が重ねられたのだろうと感じられる計画的な工事となっており、協議による方針確認及び課題や問題点の抽出の重要性を本見学会で再確認出来た。

最後に、現場見学を快く受け入れて下さった管理・発注者の皆様、施工業者の皆様、ならびに現場見学会を企画して下さい建設コンサルタント協会東北支部の皆様にお礼申し上げます。

令和5年度 構造専門委員会「現場見学会」に参加して

中央コンサルタンツ株式会社 菊地美緑

令和5年12月6日に開催された、建設コンサルタンツ協会東北支部主催の現場見学会に参加した。

見学した現場は、令和4年3月16日に発生した福島県沖を震源とする地震により被災（主桁が直角方向に30cm移動）した福島県内の一級河川 阿武隈川を渡河する伊達橋の新設橋架け替えに向けた既設トラス桁の撤去工事であった。

現場は、架設桁の組立て中であった。トラス桁の撤去スパンが72mと長く、架設桁を製作する必要があったが、製作にコストと期間を要するため、令和4年度に岐阜国道事務所と同形式・同規模の上部工撤去工事で製作した架設桁を転用することでコスト縮減・工期短縮に繋げていた。

また、トラス桁の撤去は、架設桁とトラス横桁をチェーンブロックで繋ぎ、段階的に撤去するが、搭載したトラベラークレーンなどの揚重機によるたわみや橋体の重量変化で桁の応力状態が変化することが課題だったため、半断面を撤去した状態での照査による安全性の確保に加え、撤去手順を工夫（上横構、斜材、上弦材、横桁、下弦材の順に撤去）することで応力状態の変化に対応していた。



写真1-1 架設桁組立状況

その他、出水期の施工制約が課題であったが、出水期でも施工可能なアスファルトや床版、縦桁の撤去を先行して行うことで滞りのない工程計画を策定していた。

また、迂回路仮橋の一部に関東地整および北海道開発局の応急組立橋を活用するなど、横断的な繋がりを感じた。



写真2-1 迂回路仮橋

現場見学会を通して、実際の施工現場での動きや機材の配置など施工計画をする上で必要な情報を吸収し学ぶことができたと同時に、各現場で制約条件による課題が異なり、それらを踏まえた柔軟な設計、効率的な計画を立案していかなければならないと実感した。

今回の経験を活かし、今後は施工現場を見据えた設計、実践的な提案をできるよう努めて参ります。

最後に、今回の現場見学会を企画して下さった建設コンサルタント協会・東北支部の方々、現場で説明して下さった方々に心より感謝申し上げます。

令和5年度 河川・環境専門委員会「合同現場見学会」に参加して

セントラルコンサルタント株式会社 中川 遥

1. はじめに

私は、2023年11月2日に開催された建設コンサルタンツ協会 東北支部主催の「河川・環境現場見学会」に参加させていただきました。

見学地は、山形県の最上小国川流水型ダムと宮城県の鳴子ダムを中心に見学しました。

2. 現場見学会の感想

①最上小国川ダム

最上小国川ダムでは、自然環境に配慮した全国で5例目となる流水型ダムの堤体や監査廊を見学しました。

流水型ダムの採用に至った背景として最上小国川は、天然の「松原アユ」で知られていることから、ダム建設に対して地域の住民の理解がなかなか得られず環境に配慮した構造が望まれたことを説明いただきました。

そして、現在は流木除去を地元の漁協組合と最上町や県が協定を結んで実施するなど、地元と一体となって水質の保全に取り組んでいるというお話を聞き、河川整備における環境配慮の重要性を再認識しました。

見学時は水深が低いものの常に水が流れており、貯水池に降りて近くで見学させていただいたことで、初めて見る流水型ダムの構造に対して理解を深めることができました。



写真1 最上小国川ダム上流側

流木はほとんど溜まっておらず管理体制が整備されていると感じました。

また、最上小国川ダム下流の赤倉地区で川沿いに温泉旅館が立ち並んでいる様子を確認し、河道拡幅や掘削等が難しくダム建設まで洪水被害の抜本的な解決ができていなかったと説明いただきました。

橋から川沿いに並ぶ古き良き温泉街と河道を眺め、私たちの仕事は観光資源や環境を守る重要な仕事であると改めて感じました。

②鳴子ダム

鳴子ダムは、日本で初めて日本人技術者だけでつくったダムであると説明いただきダム建設の歴史をお聞きしました。

その中で、当時の工事写真として危険な現場作業の様子を拝見し、ほとんどが人力で過酷な施工であったことを深く認識しました。

5月のすだれ放流の際には、多数の観光客が訪れるということもお聞きし、ライトアップの様子などを見せていただきました。

見学した日は天気にも恵まれ、紅葉した山々に囲まれるアーチ型のコンクリートダムは大変美しかったです。

見学時にも一般の観光客の方々がいらっしやり、普段の業務の中で優先度を低くしてしまいがちな景観性に対して意識を向けるきっかけとなりました。



写真2 鳴子ダムの全景

3. おわりに

河川・環境現場見学会ということで環境に配慮したダムや観光資源にもなっているダムを間近で見ることができ、とても貴重な経験となりました。

また、コロナ下でなかなか交流のできていなかった他の会社の方々とも初めてお会いする機会となり、有意義な時間を過ごせました。

最後になりますが、見学会を主催して頂いた建設コンサルタンツ協会、国土交通省の皆様には感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

令和5年度 河川・環境専門委員会「合同現場見学会」に参加して

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 兼 子 英 之

1. はじめに

建設コンサルタンツ協会東北支部の河川専門会及び環境専門委員会が合同で実施している河川・環境現場見学会は、令和元年度の開催以降、新型コロナウイルス感染症の拡大により開催が見送られてきた。

4年振りとなる令和5年度河川・環境現場見学会が、令和5年11月2日（木）に「①建設コンサルタントの河川・環境技術者として、技術の研鑽に努める機会とするとともに、相互交流を行う②国交省の技術者も参加し、官民相互に課題を共有する」の2点を目的に開催された。

2. 最上小国川ダム

最上小国川ダムは、最上川水系最上小国川に建設された重力式コンクリートダムであり、ダム下流の赤倉地区の人命と財産を水害から守ることを目的に建設されたダムである。

山形県最上総合支庁建設部河川砂防課の方々に案内していただき、最上小国川ダムの説明を受けた。

当ダムは、通常時はダムに水を貯めず流れを阻害しない流水型ダムである。説明状況写真を以下に示す。

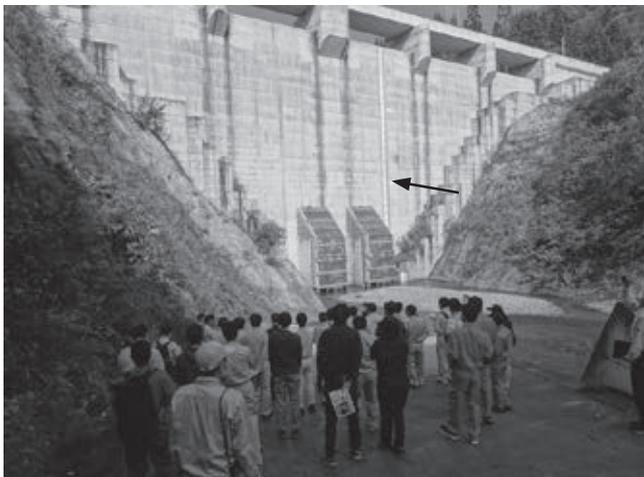


写真1 最上小国川ダム見学状況

流水型ダムは全国で5例目であり、東北地方では最上小国川ダムしかない形式である。点検等を行うための監査廊の写真を以下に示す。

急な階段が約41m下端の試験湛水用放流設備まで続いている。他の多目的ダムとは異なり常時水を貯めないことから、漏水がほとんど発生していないという説明を受けた。



写真2 最上小国川ダム監査廊

最上小国川ダム堤頂から上流側の眺望写真を以下に示す。流水型ダムということで湛水面がなく、常時水が流れている。これにより、河川の縦断的連続性が確保されており、流水と同時に土砂も下流に流下することから、環境面にも優れた形式であることが分かる。



写真3 最上小国川ダム上流河道状況

3. 赤倉温泉周辺の河道状況

最上小国川ダム建設の目的の1つであるダム下流2km地点の赤倉地区の河道状況を見学した。

河岸沿いに温泉施設が立ち並んでおり、河道拡幅や河床掘削などの河道改修が困難であることが理解できた。

ダム建設により、赤倉地区における基本高水流量340m³/sを計画高水流量120m³/sまで低減することが可能となり、洪水被害の解消が可能となった。

H18.12.27洪水状況



写真4 最上小国川ダム下流の赤倉地区

4. 鳴子ダム

鳴子ダムは、一級河川北上川水系江合川に建設された日本人だけの手による、日本で最初のアーチ式コンクリートダムであり、治水と利水を目的とした多目的ダムである。

ダム建設当時の図面などの資料や施工時の写真を説明いただき、日本初の純国産アーチダムを見学できたことは技術研鑽をしていく良い機会となった。



写真5 鳴子ダム管理所長の説明状況

また、鳴子ダムは治水や利水という目的のほか、観光面でも力を入れており、雪解け水を放流する「すだれ放流」が行われており、多くの観光客がすだれ放流を見るために足を運んでいる。

さらに夜間の放流を緑や青など8色のLEDでライトアップする取組みを行っており、ダムを観光資源としても活用していることを聞き、様々なことに取り組んでいるという説明を受けた。



写真6 鳴子ダム堤頂からの眺望



写真7 鳴子ダムでの集合写真

5. おわりに

令和5年度河川・環境現場見学会に参加させていただき、ダムを間近で見学することで現場見学会開催の目的である技術研鑽の機会となった。

また、官民相互の課題の共有として洪水から人命と財産を守るという課題を再認識することができた。

最後に、現場見学会で案内及び説明していただいた国土交通省東北地方整備局鳴子ダム管理所及び山形県最上総合支庁建設部河川砂防課の皆様に対し、心より感謝申し上げます。



令和5年度 道路専門委員会「現場見学会」に参加して

セントラルコンサルタント株式会社 落合 佑 亮

1. はじめに

私は、2021年にセントラルコンサルタント株式会社に入社し、道路交通部にて主に道路設計業務に携わっております。

この度、建設コンサルタンツ協会東北支部主催の現場見学会に参加し、宮城県登米市の河川領域対応型の補強土壁（アクアテール）施工現場、東松島市で供用中のラウンドアバウトを見学させていただきました。

これまで、道路設計業務における現地踏査として、道路設計箇所を訪れることは多々ありましたが、施工中の現場等を見学する機会がなく、机上における想像により計画を実施している状況でした。

今回、工事進行中の現場を見学できるとのことで、今後の設計に活かせると思い参加させていただきました。

今回の現場見学会に参加して学んだこと、今後の設計に活かしていきたいと感じたことを述べさせていただきます。

2. 補強土壁施工現場の見学



写真1 補強土壁の施工現場

宮城県登米市の現場は、大雨により河川が増水し、道路盛土が崩落した箇所で、急ピッチで道路復旧工事が進められている現場でした。

河川増水による被災箇所だったことから、河川流水に対応可能な補強土壁であるアクアテールが採用され、工事が進められておりました。

現場は、河川と山地部に挟まれた狭小な箇所であり、補強土壁施工の床掘により現況車線まで影響することから、仮栈橋を用いた仮設道路にて現道交通を確保している状況でした。

十分な作業ヤード確保も困難な状況であったことから、現地に合わせた確実な施工ができるよう、現場にて工夫をしながら工事が進められている状況を見ることができました。

例えば、作業ヤードを確保するため、施工範囲を小規模なブロックに分けて、段階的な施工としていることが確認できました。

また、補強材タイプの種別が多く煩雑であったことから、タイプ毎に色分けしたパネルを作成し、補強材にもパネルと整合した着色をすることで、ミス防止や効率化を図っていました。

他にも、床掘を行うにあたり、岩盤線が想定ラインよりも高い位置に出てきたことから、現場にて比較検討を行い、決定した方針で施工を進めていることを現場の施工管理者より説明を受けました。

今回の場合は、岩盤を掘削することで当初計画の補強土壁とする方法、補強土壁の基礎を大きくする方法の2案を比較した結果、基礎を大きくすることで対応を行っていました。

実際に施工現場を見学することで、机上の設計だけでは分からない現場での工夫や対応が、様々あることを学びました。

コンサルタントで作成した施工計画が、現地状況に応じて、現場で変更になるということが多々あることも伺い、コンサルタントとして現場状況を詳細に確認し、設計に反映することが必要であると強く感じました。

更に、今回の岩盤位置のように、設計時点では不確定な要素もあることを十分に認識し、様々なケースを想定したうえで最適な計画を立案していきたいと思えます。

特に、災害復旧工事のように迅速な復旧が必要となる工事では、手戻りの少ない施工計画が重要であり、現地状況に応じた施工計画にするために、自分の想像力をフル稼働させ、今後の設計に臨みたいと思えます。



写真2 現場見学の様子

3. ラウンドアバウト供用現場の見学

東松島市では、施工済であるラウンドアバウトが2箇所近接している現場を見学し、実際の運用状況や車両が通行している様子を確認しました。

車両の通行に関しては、信号待ちが不要であるため、通常の交差点に対して、スムーズな通行が可能でした。

また、交差点流入時に速度を落として走行しており、事故の抑制につながり安全性にも優れると思えました。

実際に、交差点をラウンドアバウトに変更することで、事故件数が減っているというデータもあることを聞いて、今回見学した現場のような交通量の少ない交差点において、ラウンドアバウトの採用は有効であると実感できました。

しかし、積雪時は通行方法を示す路面標示が見えなくなることや、歩行者動線が大きくなり歩行者の横断距離が長くなる等の課題もあると、現場を見ていて思いました。また、視覚障害者にとっては横断歩道を見つけ、横断可否の判断が難しいのではないかと考えられます。

今後はラウンドアバウトの普及により、私が設計をする機会も多くなることが予想されるため、今回の見学を通して感じたことを心に留め、利用者の安全性、利便性を重視した計画・設計を学んでいきたいと思えました。



写真3 ラウンドアバウトの見学

4. 終わりに

今回の現場見学会に参加して、実際に現場に行くことで見えてくる視点や、施工現場での対応等、多くのことを知ることができました。

一方で、今回のような見学会だけでなく、日々の生活の中で道路や構造物を、技術的な視点で意識することで、設計や施工に対する理解を深めることもできるのではと思いました。

また、他の参加者と交流できたことで、同年代の技術者の意見や考え方を聞き、建設コンサルタントとして、さらなる技術力向上に向かい努力していくことへのモチベーションにつながったことが大きな収穫でした。

最後に、このような機会を与えていただいた道路専門委員会の皆様、現場にて対応いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

能登半島地震に伴う支援対応状況について

能登半島地震により発生した災害に伴い、東北地方整備局と締結している「災害協定」に基づき、テックフォースに帯同する「UAV調査班」の支援要請がありました。

1月6日から活動開始した第1陣2パーティを初め、2月6日に活動を終了した第4陣まで全8社の会員企業が対応にあたりました。(下記参照)

宿泊場所のホテルから現地までは、悪路の中さらに渋滞も加わるため車で5～6時間を要し(朝4時頃出発)、トイレやコンビニ等の休憩施設もほとんどなく、また、降雨・降雪・強風の悪天候の中での危険な作業もあったと聞いております。

このような極めて悪条件にも関わらず、早期の災害復旧へ使命感を持った会員企業の皆様が、UAVによる調査、現地測量、平面図・横断図作成、数量計算、写真整理等の作業にあたりました。

対応にあたってくださりました8社の会員企業の皆様、ありがとうございました。



災害原因	依頼機関	依頼件数	日付及び支援内容
地震 (能登半島地震)	東北地方 整備局	4件	テックフォース帯同のUAV班による被災状況調査等 ・第1陣：1/ 6～1/12 (2パーティ) ・第2陣：1/12～1/19 (2パーティ) ・第3陣：1/19～1/26 (2パーティ) ・第4陣：1/26～2/ 2 (1パーティ) 1/30～2/ 6 (1パーティ)

[支部だより]

10月10日(火)

東北地方整備局「道路技術セミナー(構造物)」
へ講師派遣
講師/石井 一人(パシフィックC株)

10月11日(水)

秋田県との意見交換会
場所/ホテルメトロポリタン秋田
秋田県 川辺 建設部長 他 7名
協会 菅原支部長 他 21名
議題/建コンからの提案議題
(1) 担い手確保・育成のための環境整備
(2) 技術力による選定
(3) 品質の確保・向上
(4) DX推進の環境整備

10月12日(木)

土研新技術ショーケース2023in仙台
場所/フォレスト仙台
主催 国立研修開発法人 土木研究所
共催 (一社)建設コンサルタント協会東北支部

10月12日(木)

宮城県建設センター「道路基礎研修1<LIVE>」
へ講師派遣
講師/原田 慎也(株福山C)
岡田 篤(大日本C株)

10月13日(金)

若手の会定例会(集合およびWeb)

10月17日(火)

福島県との意見交換会
場所/杉妻会館
福島県 曳地 土木部長 他 10名
協会 菅原支部長 他 26名
議題/建コンからの提案議題
(1) 担い手確保・育成のための環境整備
(2) 技術力による選定
(3) 品質の確保・向上
(4) DX推進の環境整備
(5) その他

10月17日(火)~18日(水)

ふくしま市町村支援機構「法面工の計画・設計
について」他へ講師派遣
講師/石井 一人(パシフィックC株)
細谷 健介(新和設計株)

10月19日(木)

山形県との意見交換会
場所/山形県自治会館
山形県 竹内県土整備部技術統括監(兼)次長 他
11名
協会 菅原支部長 他 26名
議題/建コンからの提案議題
(1) 担い手確保・育成のための環境整備
(2) 技術力による選定
(3) 品質の確保・向上
(4) DX推進の環境整備

10月23日(月)

広報委員会
議題/ (1) 講演会の会場下見他打ち合わせ
(2) JCCATOHOKUについて
(3) その他

10月30日(月)~31日(火)

宮城県建設センター「橋梁維持・補修研修
<LIVE併用型>」へ講師派遣
講師/石井 一人(パシフィックC株)

10月31日(火)

東北地方整備局との意見交換会
場所/パレスへいあん
整備局 宮本 企画部長 他 7名
協会 菅原 支部長 他 20名
議題/建コンからの提案議題
(1) 担い手確保・育成のための環境整備
(2) 技術力による選定
(3) 品質の確保・向上
(4) DX推進の環境整備
(5) その他

11月2日(木)

宮城県との意見交換会

場 所/TKPガーデンシティ仙台勾当台

宮城県 齋藤 土木部副部長 他 7名

協 会 菅原支部長 他 20名

議 題/建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力重視による選定と入札契約制度の改善
- (3) 品質の確保・向上
- (4) DX推進の環境整備

11月2日(木)

令和5年度河川・環境合同現場見学会

「最上小国川流水型ダム、赤倉温泉周辺河道、鳴子ダム」

主 催 技術部会 河川・環境専門委員会

参加者 34名

11月7日(火)

青森県との意見交換会

場 所/ウェディングプラザアラスカ

青森県 永澤 県土整備部長 他 12名

協 会 菅原支部長 他 20名

議 題/建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) DX推進の環境整備
- (5) そ の 他

11月8日(水)

福島県土木部技術講習会「BIM/CIMの基礎(仮)」

へ講師派遣(Web開催)

講 師/市川 健(株復建技術C)

11月10日(金)

第4回情報部会(成瀬ダム見学会)

11月10日(金)

宮城県大崎広域水道事務所「(麓山塾)水道技術

研修」へ講師派遣

講 師/小松 明彦(株復建技術C)

11月13日(月)~14日(火)

青森県建設技術センター「一般構造物研修会」

へ講師派遣

講 師/向江 正夫(株東京建設C)

石井 一人(パシフィックC(株))

11月16日(木)

岩手県との意見交換会

場 所/プラザおでって

岩手県 加藤 県土整備部長 他 5名

協 会 菅原支部長 他 20名

議 題/建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) DX推進の環境整備

11月17日(金)

若手の会定例会(集合およびWeb)

11月17日(金)~12月13日(水)

技術士模擬面接(対面およびWeb)

11月21日(火)

福島県土木部技術講習会「BIM/CIMの基礎(仮)」

へ講師派遣(Web開催)

講 師/市川 健(株復建技術C)

11月22日(水)

全国事務局長会議(Web会議)

11月27日(月)

令和5年度河川講習会

場 所/ハーネル仙台

主 催 技術部会河川専門委員会

共 催 東北地方整備局

受講者 91名(建コン会員86名)

11月27日(月)

東北地方整備局若手職員と建コン協若手の会 交流会

場 所/宮城県民会館 601会議室

参加者 19名(建コン11名 整備局 8名)

11月28日(火)

仙台市との意見交換会

場 所/TKPガーデンシティ仙台勾当台

仙台市 反畑 都市整備局長 他 10名

協 会 菅原 支部長 他 20名

議 題/建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) DX推進の環境整備
- (5) そ の 他

11月29日(水)

令和5年度講演会「東北の未来を育む」

場 所/仙台市戦災復興記念館 記念ホール

講 演/「まちを育む」

福島大学 経済経営学類 准教授

村上早紀子 氏

「ひとを育む」

仙台育英学園高等学校 硬式野球部監督

須江 航 氏

「建設コンサルタントが育むもの」

(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部

松尾 技術部会長

主 催 (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部
広報委員会

後 援 国土交通省東北地方整備局、河北新報社、
日刊建設工業新聞社、日刊建設通信新聞社、
建設新聞社、日本建設新聞社

協 賛 公益社団法人土木学会東北支部、
公益社団法人日本技術士会東北支部
参加者 200名

11月28日(火)～29日(水)

青森県建設技術センター「一般構造物研修会」

へ講師派遣

講 師/北原 一彦(株オリエンタルC)

12月 1日(金)

宮城県建設センター「道路基礎研修2〈LIVE併用型〉」

へ講師派遣

講 師/兒玉 浩行(株エイト日本技術開発)

12月4日(月)

第2回技術部会専門委員長会議

場 所/事務局会議室

- 議 題/
- (1) 令和6年度技術部会事業計画について
 - (2) 東北におけるインフラ整備構想動画作成の報告
 - (3) そ の 他

12月5日(火)

企画委員会

場 所/支部会議室

- 議 題/
- (1) 来年度の事業計画および予算(案)について
 - (2) そ の 他

12月6日(水)

構造専門委員会「現場見学会」

主 催 技術部会構造専門委員会

参加者 30名

12月6日(水)

第1回総務部会

場 所/事務局会議室

- 議 題/
- (1) 令和5年度活動報告
 - (2) 令和6年度事業計画
 - (3) そ の 他

12月7日(木)

第5回情報部会(Web会議)

- 議 題/
- (1) 「MCCに関する情報提供」
(オンライン電子納品説明会)
 - (2) 各WGより活動報告
 - (3) そ の 他

12月8日(金)～9日(土)

若手の会本部交流会in盛岡

12月11日(月)

インフラメンテナンス専門委員会「技術職員研修会」

場 所/ハーネル仙台

主 催 技術部会インフラメンテナンス専門委員会
受講者 27名

12月12日(火)

道路専門委員会「現場見学会」

主催 技術部会道路専門委員会

参加者 18名

12月14日(木)

役員会

場所/パレスへいあん

議題/ (1) 令和6年度支部事業計画(案)について
 (2) 令和6年度支部予算(案)について
 (3) その他

12月14日(木)

本部 多田副会長講演会

場所/パレスへいあん

主催 総務部会

参加者 約130名

12月14日(木)

支部忘年会

場所/パレスへいあん

主催 総務部会

参加者 約130名

12月20日(水)

全国担当者会議

場所/本部会議室

議題/ (1) 令和5年度「本部・支部意見交換会」について
 (2) インボイス制度の対応について
 (3) 電子帳簿保存法への対応について他

1月15日(月)

第2回総務部会

場所/事務局会議室

議題/ (1) 高校生橋梁模型作品発表会について
 (2) 令和6年度事業計画について
 (3) その他

1月23日(火)

役員会

場所/東京エレクトロンホール401会議室

議題/ (1) 本部と支部の意見交換会について
 (2) 各部会・委員会からの報告
 (3) その他

2月5日(月)

令和5年度講演会「東北の未来を育む」(vol.2)

場所/仙台市戦災復興記念館 記念ホール

講演/「まちを育む」

福島大学 経済経営学類 准教授

村上早紀子 氏

「ひとを育む」

仙台育英学園高等学校 硬式野球部監督

須江 航 氏

主催 (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部
 広報委員会

参加者 200名

2月15日(木)

第22回 高校生「橋梁模型」作品発表会

主催 高校生「橋梁模型」作品発表会実行委員会

(当支部他5団体共催)

2月15日(木)

第6回情報部会(メール確認)

議題/ (1) 令和6年度事業計画(案)について
 (2) 各WGからの報告
 (3) その他

2月19日(月)

広報委員会

場所/事務局会議室

議題/ (1) JCCATOHOKU 68号校正
 (2) 来年度講演会の企画について
 (3) その他

2月20日(火)

役員会

場所/パレスへいあん

議題/ (1) 本部・支部意見交換会について
 (2) 各部会・委員会からの報告
 (3) その他

支部だより

2月20日(火)

経営者委員会(社長会)

場 所/パレスへいあん

議 題/(1) 本部地域コンサルタント委員会の報告
(2) 担い手確保育成活動について
(3) そ の 他

業務紹介/「復興から創生そして近未来への提言」
PR動画の作成について

技術部会 ICT専門委員長
市川 健 氏

3月 7日(木)

建コン本部と支部との意見交換会

場 所/パレスへいあん

本 部 中村会長 他 12名

支 部 菅原支部長 他 25名

議 題/(1) 令和6年度「要望と提案」概要の説明に
ついて
(2) 令和6年度「白書」の基本方針と骨子に
ついて
(3) 支部からの提案
(4) そ の 他

3月11日(月)

第3回技術部会専門委員長会議

場 所/事務局会議室

議 題/(1) 令和5年度事業報告・令和6年度事業計画
(2) 能登半島地震対応状況報告
(3) そ の 他

3月12日(火)

宮城県土木部職員研修「橋梁設計研修」へ講師派遣
(Web開催)

講 師/荒屋敷克志(いであ株)

3月18日(月)

宮城県土木部職員研修「軟弱地盤・斜面安定対策研修」
へ講師派遣(Web開催)

講 師/佐々木健司(東邦技術株)

細谷 健介(新和設計株)

3月28日(木)

企画委員会

場 所/支部会議室

議 題/(1) 令和6年度支部総会について
(2) そ の 他

[会員の動向]

◆ 新入会員の紹介

- 令和5年5月入会 株式会社三洋コンサルタント 岩手営業所
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ5-16-34
TEL 019-645-6281 FAX 019-645-6282
- 令和6年3月入会 エイコウコンサルタンツ株式会社
〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字下亀子谷地11-2
TEL 0178-21-1511 FAX 0178-21-1512
- 令和6年3月入会 株式会社櫻エンジニアリング
〒963-8034 福島県郡山市島1-22-30
TEL 024-953-6830 FAX 024-953-6831

一般社団法人 建設コンサルタント協会 東北支部 会員名簿

会員 4月現在 108社

会社名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
(株)アースデザインコンサルタンツ	本社	〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字石橋前6-8	0192-27-0835
(株)アールバン設計	本社	〒963-0201 福島県郡山市大槻町字御前東46-26	024-961-7500
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング	東北支社	〒981-3133 仙台市泉区泉中央2-25-6	022-343-8166
朝日航洋(株)	東北営業部	〒981-3131 仙台市泉区七北田字古内1-1	022-771-2382
アジア航測(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-4-28	022-216-3553
(株)東コンサルタント	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字正内町101	0246-23-8424
(株)アルファ水工コンサルタンツ	仙台事務所	〒985-0874 多賀城市八幡3-10-27	022-207-5300
いであ(株)	東北支店	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-1-11	022-263-6744
(株)ウエスコ	東北事務所	〒981-1106 仙台市太白区柳生1-11-8	022-797-5271
(株)ウヌマ地域総研	本社	〒010-0965 秋田県秋田市八橋新川向13-19	018-863-5809
エイコウコンサルタンツ(株)	本社	〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字下亀子谷地11-2	0178-21-1511
エイト技術(株)	本社	〒031-0072 青森県八戸市城下2-9-10	0178-47-2121
(株)エイト日本技術開発	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-712-3555
(株)エース	仙台営業所	〒980-0003 仙台市青葉区小田原5-1-53-208	022-797-9718
応用地質(株)	東北事務所	〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町3-21-2	022-237-0471
(株)オオバ	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-2-13	022-261-8861
(株)オリエンタルコンサルタンツ	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1	022-215-5522
開発虎ノ門コンサルタント(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24	022-292-5220
(株)片平新日本技研	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-722-3130
川崎地質(株)	北日本支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-4-16	022-792-6330
基礎地盤コンサルタンツ(株)	東北支社	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-9-23	022-291-4191
キタイ設計(株)	東北支社	〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-6-53	022-343-5416
(株)キタコン	本社	〒036-8051 青森県弘前市大字宮川1-1-1	0172-34-1758
(株)キタック	仙台事務所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-1-37	022-265-1051
(株)橋梁コンサルタント	東北事務所	〒963-8024 福島県郡山市朝日1-28-14	024-953-3667
(株)協和コンサルタンツ	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-14	022-266-6073
協和設計(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1	022-742-3711
(株)近代設計	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-12-12	022-207-2480
(株)ケー・シー・エス	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2	022-224-1591
(株)建設環境研究所	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10	022-292-6012
(株)建設技術研究所	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-261-6861
(株)コウキコンサルタント	本社	〒966-0902 福島県喜多方市松山町村松字小荒井道西405-10	0241-24-2701
(株)構研エンジニアリング	東北営業所	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-203	022-344-6231
(株)郡山測量設計社	本社	〒963-8041 福島県郡山市富田町字十文字54-3	024-952-5200
(株)国際開発コンサルタンツ	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-5-25	022-225-6201
国際航業(株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-45	022-299-2801
国土防災技術(株)	東北支社	〒984-0075 仙台市若林区清水小路6-1	022-216-2586
(株)コサカ技研	本社	〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上碓田56-2	0178-27-3444
(株)コンテック東日本	本社	〒030-0122 青森県青森市大字野尻字今田91-3	017-738-9346
(株)寒河江測量設計事務所	本社	〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153-1	0237-86-5520
(株)櫻エンジニアリング	本社	〒963-8034 福島県郡山市島1-22-30	024-953-6830
(株)サト一技建	本社	〒984-0816 仙台市若林区河原町1-6-1	022-262-3535
(株)三協技術	本社	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-14	022-224-5503
三協コンサルタント(株)	本社	〒994-0062 山形県天童市長岡北1-2-1	023-655-5000
サンコーコンサルタント(株)	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-273-4448
(株)三洋コンサルタント	岩手営業所	〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ5-16-34	019-645-6281
(株)三和技術コンサルタント	本社	〒995-0015 山形県村山市楯岡二日町7-21	0237-55-3535
柴田工事調査(株)	本社	〒012-0801 秋田県湯沢市岩崎字南五条61-1	0183-73-7171
(株)庄内測量設計舎	本社	〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地69-9	0234-43-2459
昭和(株)	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1	022-742-5301
(株)昭和土木設計	本社	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4-1-23	019-638-6834
(株)新星コンサルタント	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-11	050-5814-4959
新和設計(株)	本社	〒992-0021 山形県米沢市大字花沢880	0238-22-1170
(株)新和調査設計	本社	〒963-8016 福島県郡山市豊田町4-12	024-934-5311

会社名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
J R 東日本コンサルタンツ(株)	東北支店	〒983-0853 仙台市宮城野区東六番丁31-2	022-211-0872
セントラルコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0822 仙台市青葉区立町27-21	022-264-1923
(株) 創研コンサルタンツ	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王1-9-22	018-863-7121
(株) 総合技術コンサルタンツ	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-6-15	022-268-4191
創和技術(株)	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王6-20-7	018-863-4545
(株) 田村測量設計事務所	本社	〒990-0023 山形県山形市松波4-12-3	023-642-6644
第一復建(株)	仙台事務所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-3701
(株) ダイエツ	本社	〒965-0831 福島県会津若松市表町2-53	0242-26-1253
大日コンサルタンツ(株)	仙台事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-225-5626
大日本ダイヤコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35	022-261-0404
大和工営(株)	本社	〒996-0053 山形県新庄市大字福田字福田山711-43	0233-22-2422
(株) 地圏総合コンサルタンツ	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-261-6466
中央開発(株)	東北支店	〒984-0016 仙台市若林区蒲町東20-6	022-766-9121
(株) 中央技術コンサルタンツ	東北支店	〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-13-4	022-375-6787
中央コンサルタンツ(株)	仙台支店	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-27	022-722-2541
中央復建コンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7	022-267-1459
中電技術コンサルタンツ(株)	東北事務所	〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-15	022-397-8173
(株) 長大	仙台支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26	022-781-8628
(株) 千代田コンサルタンツ	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2	022-214-6261
(株) テイコク	東北支店	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-202	022-343-0956
(株) 東京建設コンサルタンツ	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-222-8887
東京コンサルタンツ(株)	東北支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-20	022-265-3891
(株) 東建工営	本社	〒981-1227 名取市杜せきのした1-2-7	022-383-9811
(株) 東光コンサルタンツ	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-9-8	022-264-1578
(株) トーニチコンサルタンツ	東北事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-262-0243
(株) ドーコン	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-225-2860
東邦技術(株)	本社	〒014-0041 秋田県大仙市大曲丸子町2-13	0187-62-3511
(株) 東北開発コンサルタンツ	本社	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-33	022-225-5661
(株) 東北構造社	本社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3	022-227-1877
(株) 土木技研	本社	〒020-0839 岩手県盛岡市津志田南2-16-20	019-638-8131
日栄地質測量設計(株)	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字作町1-3-2	0246-21-3111
(株) 日水コン	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3	022-222-1101
(株) 日本インシーク	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24	022-724-7530
日本工営都市空間(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-8-20	022-227-3525
(株) 日本工営都市空間	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-13-22	022-716-6646
(株) 日本構造橋梁研究所	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1	022-713-6657
(株) 日本港湾コンサルタンツ	東北事務所	〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5	022-215-9051
日本振興(株)	東北支店	〒980-8485 仙台市青葉区中央1-2-3	022-797-0391
(株) ニュージェック	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-301-7611
パシフィックコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1	022-302-3940
(株) パスコ	東北事業部	〒983-0864 仙台市宮城野区名掛丁205-1	022-299-9511
(株) 東日本建設コンサルタンツ	本社	〒974-8261 福島県いわき市植田町林内26-5	0246-63-6063
(株) 福田水文センター	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町3-6-18	022-281-8525
(株) 福山コンサルタンツ	東北支社	〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17	022-262-0118
富士コンサルタンツ(株)	仙台支店	〒982-0013 仙台市太白区太子堂10-20	022-395-6216
(株) ふたば	本社	〒979-1113 福島県双葉郡富岡町曲田55	0240-22-0261
(株) 双葉建設コンサルタンツ	本社	〒996-0002 山形県新庄市金沢字谷地田1399-11	0233-22-0891
(株) 復建エンジニアリング	東北支社	〒980-0802 仙台市青葉区二日町11-11	022-267-2765
(株) 復建技術コンサルタンツ	本社	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25	022-262-1234
復建調査設計(株)	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1	022-723-5830
三井共同建設コンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3	022-225-0489
陸奥テックコンサルタンツ(株)	本社	〒963-8011 福島県郡山市若葉町17-18	024-922-2229
八千代エンジニアリング(株)	北日本支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町1-23	022-261-8344
(株) 吉田測量設計	本社	〒020-0861 岩手県盛岡市仙北1-3-13	019-635-1740

編集後記

令和6年は、新年からショッキングな出来事から始まりました。能登半島地震や羽田空港における日本航空機と海上保安庁の航空機による衝突事故という悲しいニュースが目飛び込みました。

亡くられた方々に、哀悼の意を表するとともに、今なお避難されている方々の一日も早い平穏な生活に戻れるようお見舞い申し上げます。

また、嬉しいニュースもあり、JAXA探査機が月面着陸に成功と世界5か国目の快挙となり、日本の技術力はやはり素晴らしいものだと実感しました。

今号は、特集記事として育児休業に関する事や講習会・見学会等の記事が多く、盛りだくさんの内容となり広報委員一丸となり記事の校正をさせて頂きました。

特筆すべき点として、講演会が年2回開催されるという、今までに無い試みをした事です。

福島大学経済経営学類准教授「村上早紀子」様、仙台育英学園高等学校硬式野球部監督「須江航」様を講師としてお招きし、1回目は一般の方向けに、2回目は建設コンサルタンツ協会の会員向けに開催させて頂き、会場も満員御礼となり大変好評頂きました。

次回の講演会も、ぜひ期待して頂ければと思います。

改めて年末から年度末のご多忙の折に、講演会ならびに本号のために記事を執筆頂いた皆様、本当にありがとうございました。

安井 栄晃

JCCA TOHOKU Vol.68

発行 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会東北支部
〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-11
アーク仙台ビル
TEL 022-263-6820

編集 広報委員長 菊池透
副委員長 上野圭祐 副委員長 菊田博己
広報委員 大友正樹 広報委員 相澤達也
〃 大場秀行 〃 樋口章大
〃 長谷川悟 〃 遠藤敦
〃 安井栄晃 〃 海藤剛
〃 海老名俊之 〃 遠藤康郎
〃 佐藤正隆 〃 畑山満

事務局 淀川政晴・小川みゆき
印刷 ハリウコミュニケーションズ株式会社
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12
TEL 022-288-5011



.....明日への風、東北から.....

ロゴのデザインについて

三本の流れは、東北から発進する新しい風と〔文化〕を象徴したものであり、その中の白い三角は東北独自の〔風土〕と〔歴史〕をイメージしたものである。